2017 衆議院選挙結果アンケート返信内容総録

2018 年 1 月
自由と平和のために行動する議員と市民の会＠杉並

このアンケートは 2017 衆議院選挙の直後に、郵送とメールで＠杉並賛同者を対象に実施したものです。

質問１　選挙を振り返って

質問２　今後の＠杉並の活動に対する意見

ここには、11 月 20 日までに郵送とメールで＠杉並事務局に返送された 68 通の回答をそのまま掲載しました。

ご回答をお寄せいただき、どうもありがとうございました。

●郵送１

【質問１】

①杉並の賛同者でありながら、何もしなかったこと反省している。

②直前のお便りで、立憲民主党、共産党への一本化の働きかけ、それに対する返答を読んで、市民がここまで踏み込んでそれにかかわれるのだということを知り、強い印象を持ちました。

③突然の解散選挙で、だれが候補に立つのかもわからない時に（広報も配られないし･･･）期日前投票って？？と思いました。すべての、正しく情報が伝わって、有権者は一票を誰に入れるか、決めなければいけないのですよね。

④世田谷の区境にも石原宣伝カーは何度も何度もやってきて、かなり追い詰められている感があっただけに残念な結果でした。

●郵送２

【質問１】

＠杉並が２年前から野党一本化に頑張っていたのに、こんな結果になって残念で仕方ありません。2,4, 5位という反石原がまとまれば勝てた選挙でした。石原は公示日から政党ポスターを張り出し、浜田山では300枚は貼っていたでしょう。朝日には候補者ビラを入れ、その危機感・財力はすさまじいものでした。投票しても変わらないという国民感情を40％以上を作り出した自民安倍政権を許すわけにはいきません。謙虚・真摯・丁寧というクロ光のウソに騙されるほど、民意は低いのか。

【質問２】

自公２/３、改憲派80％という中で、安倍政権のおかしさ暴走を「安倍政治を許さない」を言い続けるしかありません。野党は共闘の中個人や政党の意思をまとめることの難しさを痛感しました。誠実投票か戦略投票か、私は死票になりましたが、投票率アップが与党を倒す必須条件と思います。20代の若者の革新性を目覚めさせなければと思います。

●郵送３

【質問１】

共産党の「大英断」でおさない候補が降りて、立憲民主の吉田候補が野党統一候補であれば、石原伸晃氏に勝てたと思われる。東京全地区で野党統一で戦えば（希望は野党ではなく準与党）、自民党の議席はかなり減り、自公で３分の２を占める事態にはならなかったと思う。

【質問２】

今回の敗戦を教訓にして＠の活動をさらに前進させていってほしい。安倍改憲阻止の市民連合の活動はますます大切になっていく。

●郵送４

【質問１】

①立憲野党が前進した事実に確信。

②自公改憲勢力が２/３を占めた。改憲させてはいけません。憲法実行を！

③野党共闘を「引っ張ってきた」「国会での論戦」共産党が減りました。

④②，③の事実から市民運動よ大きくなれ、野党共闘を押し上げ、②の危険な動きにストップを。

【質問２】

私たち市民の活動次第、ますます大切。根を張った活動、広げる活動を。

公示日では遅すぎました（短期決戦とはいえ）。地元でどう動いてよいか「待ち」の選挙でした。

統一して戦えば勝てた、しかし屋台骨の共産党が少なくなるのでは元も子もなくなる、どうしたらいいのか？

共産党よ、市民運動よ、広がれ広がれ。

●郵送５

【質問１】

お疲れ様です。＠杉並の活動等いつも応援していました。

今回の総選挙も統一候補を立てれば落ち目の石原伸晃を落選させることができたのにと、残念でなりません。

各政党のお考えがあるでしょうが、大与党の自民党を倒すにはやはり統一候補を立てる以外には道はないと思います。級は選挙で準備もできていなかったということもあるとは思いますが、憲法を軸にして物事を考える立憲民主党ができたことは憲法を守る意味ではとてもよかったと思います。

【質問２】

やはり統一候補を立てるべきだと思います。地道に当選者を増やしていけば、いつかは与野党逆転になるかもしれません。せめて国会で、法案の審議が多数決で決まらず、話し合いの場が持てて、国民の意思が反映されるように野党議員が増えたらいいと思います。

●郵送６

【質問１】

①立憲（民主）の元身内みたいな円氏や木内氏が立候補するのだから、共産に「おりてくれ」といっても、「円氏や木内氏が出るのにどうして共産だけ」と反応するので、統一は無理かな、と思っていました。

②投票率が低かった。

棄権者の分析がどこかであったら、知りたいものだ。

③選挙テクニック上「ああすれば、こうすれば」がうまくいっても、数千票プラスはあったかもしれないが、やはり負けた。

【質問２】

次期総選挙はダブル選挙と予想します。

●郵送７

【質問１】

石原を落としたかった。残念至極です。これからも、自公ストップを第一に共同を強めていくことを願う。

●郵送８

【質問１】

安倍は森友かくしのために急に大金（税金）を使って衆院解散。野党は準備する暇もなく民進党の分裂、にわかつくりの立憲民主党も実態はよくわからない。こんな選挙は無効にしてもいいくらいだ。

【質問２】

自民党の税金のムダ遣いを徹底究明して、次の選挙に向けて野党は共産党も含めて連合すべきである。共産党はこの非常時に、労働党と改名してはどうか。

憲法改正（悪）の結果がどうなるのか、国民に分かりやすく常に宣伝して欲しい。北朝鮮は米と本気で戦争したら負けるに決まっている。その点は北朝鮮もわかっているはず､対話が大切。安倍（のみならず歴代の自民党）はアメリカの言う通りでは？後は自滅、基地をつくるなら永田町につくれ！

●郵送９

【質問１】

不平等な小選挙区制の中で、安倍を倒そうというと野党共闘を考えてきたのに、統一候補が作れず、残念な結果です。石原の票数を見ても統一候補をつくれば勝てたかもしれないと思うと残念です。吉田さんは立憲民主党として活動していくのか、なぜ協定できなかったのでしょうか。

【質問２】

また、会議に参加したいと思います。

●郵送 10

【質問１】

“野党連合の必要性を強く感じています（時間が足らないので仕方ないかもしれませんが）杉並区でもし統一候補をしぼっていたら、吉田さんと長内さんの得票数は石原さんとほぼ同じくらいになったのでは…！！と残念です。

私のまわりでは、公明党支持の方も吉田さんに投票した人がいました。自民党支持の年配の男性も吉田さんに入れたそうです（石原さんが嫌いらしいので）

【質問２】

もっと日常的に周りの無関心な方にも身近な話題として政治の話をし続けることが大事だと思います。特に 20 代、子育てのど真中の 30 代の方々に話しかけていく必要がありますね。

●郵送 11

【質問１】

８区の候補者が統一できなかったのは残念でした。でもこれまでのみなさまの活動に感謝しています。自分自身なかなか活動に参加できていなかったので申し訳ないです。

【質問２】

引き続き活動を続けてほしいです。

街頭の集会も続けて行ってほしいです。

●郵送 12

【質問１】

一口に身を切るといっても実行するとなると大変な勇気のいることです。それもほとんど見返りがないことに対してするというのは、ある意味では無謀と言われても仕方のないことです。今回共産党はまさにそれをやってのけました。それも成立間もない立憲民進党との間ではろくに話を詰めもせず、ほとんど一方的に候補を取り下げたところもあったと聞きます。党利党略を捨て、野党統一のために身を切った共産党に多くの有識者はもちろん、ともに選挙戦をたたかった人々から賛辞が寄せられるのも当然です。「見返りは民主主義」という名言は政治の社会だけでなく、日常生活にも座右の銘にでもしたいほど感動しました。人のために役に立ちたいと思うのは自然のことです。人の役に立ちたいと誰もがいつも考えていると私は思います（アベ一派は別ですが）。でも、身を切ってまでにはちょっとためらいがあります。それでも見返りは民主主義と私も胸を張っていってみたいと思います。

【質問２】

過日、私は貴会に感想を提出しました。特にご返事をいただこうとは思っておりませんでしたが、今回封書をいただいたとき、あるいはご返事かなと期待したのがおろかでした。貴会は一人一人の意見をほんとうに大切に思われていますか。感想を述べたものに対してほかの人と一律にアンケートを送ってよこすのは失礼ではありませんか。

事務局会議をもった？？、メンバーだけで総括するのではなく、賛同者一人ひとりの声を集めてから、もう一度総括をやり直すという姿勢を見せてくれたことには一定の評価をしますが、私の感想が事務局会議で話題になりましたかおたずねします。例えば、民進党の態度が不誠実であったこと、円より子氏の統一破壊の無礼さについてのこと、吉田はるみさん陣営？のアンフェアな態度について、貴会がどのような見解をお持ちになるのか非常に興味があるところです。

●郵送 13

【質問１】

1）不統一で残念です。「@杉並」の力が政党に圧力になるほどのものではなかったと思います。突然の選挙のせいでもあります。しかし、賛同者わずか 600 名では足元を見られたと思います。そもそも、17 名の区議は 2000 票以上で当選した方たちです。2000 × 17

名＝34000名会っても良いはずです。

2）自公の強さは、町内活動、消防団、祭り、火の用心etcと地道な日常の活動を続けています。バスを連ねて町内会旅行や観劇もやっていると聞きます。街の人は、そんな身近な世話をやく人たちに、安心感を持つのではないでしょうか。「@杉並」がまだ獲得できていない世界だと思います。強さから学ぶ必要、足元を見つめる事が大切だとつくづく思いました。

【質問2】

1）区長選、区議選、参院選と先々あります。「@杉並」はこれからは地元に力を注いだらどうでしょうか。

もっと地元のコミュニティ形成に力を注ぐ、フリマ、音楽などをはじめいろんなアイデアで地元に根付く必要があるとおもいます。自公の町内会に対抗するのではなく、若いママ、パパ、お年寄りが楽しめるものを。

2）現在「考える会」では、区政の問題をとりあげ、裁判にかけられたり、表現の自由を奪われ、住民の自治権が奪われている事態を区民に訴えていく活動を始めています。私たちの街を暮らしやすくするために、私たち住民がデザインしていくべきではないかと思います。「考える会」は、何でも反対というのではなく、対抗案を提示しながら問題点を区民に訴えていく方針です。皆さんの参加をお待ちします。自由に参加できます。

●郵送14

【質問1】

既に国会でも影のうすい石原氏を追い落とすことができなかった野党市民側の運動の総括をきちんとやって再出発して下さい。阿佐ケ谷駅頭での吉田さん、長内さんの演説を聞きに行きましたが、はっきり言って魅力も熱も感じませんでした。内容はステレオタイプの決まり文句を述べるものでは有権者をひきつけることは出来ません。自分の勉強や運動が血肉になっていて初めてみんなに訴えることが出来ると思います。

●郵送15

【質問1】

非常に残念です。石原氏を落とすことができなかったにせよ、統一候補を出すことができていたら、票がもう一段高まって、私達の意志を強く示すことができたのに。

立憲民主党の立党は嬉しかったですが、ここまで自民党の勢力が増すと、今後は数で押し切っていくことが目に見えています。あきらめたらいけない！

【質問2】

市民連合の勢力を少しでも伸ばすように、そして、私達の意志表示の機会を今後もつくっていきたい。流されたくない。

●郵送16

【質問1】

安倍政権を追いつめての「冒頭解散」だったのに選挙制度（小選挙区制度）に問題があったとはいえ、結果として与党が三分の二を占めることになったことは腹立たしい限りです。野党の分裂で有権者が迷い、投票率も上がりませんでした。数が減りはしましたが、「市民と野党の共闘」の火は脈々と続いています。国会内外で今まで以上に共闘を強め拡げていくことがますます大事になってきたと思います。

【質問2】

野党統一候補を望んだ多くの方々にまだ@の存在が知れわたっていませんでした。立憲民主党と共産党と生活者ネット、社民党が一緒になって闘えばまちがいなく1＋1＝2＋αで当選できる可能性がありました。（実現できた、石原を倒すことが・・）

党利党略でなく、市民と野党の真の一本化を目指すため、今後とも区民に見える形での運動をひろげ、メンバーを増やしていくようにしたいです。名前だけ参加でなく、今のメンバーが推進する核となって・・・

●郵送17

【質問1】

杉並に関していえば、もう少し候補者をしぼって、せめて石原伸晃を落選させるべきだった。自民党安倍政権のおごりに対してそれくらいの有権者の意志は示せた得票数だったのにこんなにわれてしまっては、あまりにもったいない。

「憲法の危機」だというのに、なんともなさけない。共産党も諸派も新人を立ててどうする？

【質問2】

区長選に向けて、今度こそ一致した有力候補を立てていただきたい。国政、都政が右にいっても、杉並は独立するくらいの区長が当選してもらいたい。宇都宮でも良い。とにかく世田谷区と並ぶような区長を立てていただきたい。

●郵送18

【質問1】

政治を国民の手にとりもどすためには、安倍自・公政権に変わる憲法を生かす政権を確立する以外にない。杉並区民の責任は、自民石原に変わる野党候補を勝たせることに尽きない。

今回の選挙ほどこのことを強く感じさせた選挙はない。

又、この統一候補の勝利の可能性もあることを証明した選挙でもあった。

今度こそ成功させる。そして、一歩、統一候補の斗い（たたかい）へ踏み出し、経験を積む事が大事だと思う。

【質問2】

自・公政権を変える杉並の闘いとしての野党統一候補の斗い（たたかい）の政治的意味をしっかり宣伝･対話し、そのための政策の一致・協定とそれを守る候補者、政党間の信頼・協力関係を市民共斗の場で確認する市民的作業をしっかりつくる。

そして一歩踏み出すことで次の段階へ進め、取り組みが必要ではないか・と思います。

●郵送 19

【質問１】

候補者の統一問題などについては、地域にそのような組織がある場合、地域組織に（解読不可能）為の（解読不可能）改善してほしいと思います。

今回も円や木内の問題はあるにせよ、統一すれば石原に（解読不可能）てたかもしれません。

【質問２】

共産党の地区委員会（やや？？？）が、本気で取り組んで欲しい。（解読不可能）に比べれば、？？本気度が不足している。

●郵送 20

【質問１】

２年間の活動にも関わらず統一候補を作れず、市民が政党の事情に振り回され、石原伸晃氏を落とせなかったという事実、結果を重く受け止めるべきだ。同じ事を今後繰り返さないために原因を総括し、政党にも伝えて欲しい。

立憲民主党は急な立ち上げで組織として実態がなかったという事情はあるにせよ、それまで民進党として、区議選の結果などを受け、普段から共産党と話し合いが出来ていれば、８区でも一本化出来ていたのではないか？野党共闘と言いながら、他党が一方的に候補者を降ろすのを当然とする姿勢はおかしいと思う。

また、共産党は、多数候補者を一方的に降ろし議席を半数ほどまで落とした事で讃えられる事が多いが、結果として与党２/３議席を許した。８区の様な「一本化していれば勝てた地区」であと４議席守っていれば、改憲を可能とする２/３は阻止出来たのにも関わらず、である。候補者を多く降ろした事で満足する事は、思考停止であり、本来の目的を見誤るので、危険ではないだろうか？これまでの民進側の対話努力不足、そして民進の関係者が複数立候補したのは事実だが、その一方で、今回、立憲と一本化して勝てる為の行動を選択出来た立場にあったのは、共産党だけだった事もまた事実ではないか。

反自公政権側がまとまれずに共倒れ、という、非常に情けない結果を今後繰り返さない為に、両党に我々市民の意見を伝えるべきだ。

【質問２】

改憲に向けて加速される与党圧倒的有利な体勢の中、運動を後退させるという選択肢は無いのでは。より大きく広めていく活動を期待する。

●郵送 21

【質問１】

前略いろいろご苦労様でした。

●郵送 22

【質問１】

600億円もの費用をかけて、意味のない選挙をやった安倍首相に対して、気持ちのおさまらないものがあります。これは選挙結果うんぬんの前に、しっかりと胸に刻んでおきたいと思います。解散権の乱用、それと何度も繰り返し言われたことですが、小選挙区制がまったく民主的でないということ。以上ふたつを長期的なまなざしで変えていこうという姿勢を持っていたいです。あとは、維新と希望の衰退、立憲民主の伸びに希望を持ちました。そして、共産党の野党共闘への尽力には心打たれるものがありました。比例は共産党へが、もっとゆきわたればよかったと、自分の努力不足を感じています。

【質問２】

円卓会議など、早くから統一候補を立てるために力を注いでいらした皆さん。本当にお疲れ様でした。８区はもったいないことをーという意見も聞かれますが、私は充分に努力なさってきたと思っています。８区だけではなく全体の流れが大きく変わっていかないとむずかしいところがあるのかも。努力を続けていく、あきらめないが大切と自分は思っています。小関さん、本当にお疲れ様でした！

●郵送 23

【質問１】

野党共闘の統一候補を立てられなかったのが残念、自民党を倒したかった！

【質問２】

他党派の人たちとも連繋の取れた活動ができるといいです。共通の目的で、特に平和を守る目的で。

●郵送 24

【質問１】

①自公の微減。改憲勢力の80％は曖昧勢力（希望などのウソを見られない層の問題

②民進党の解体の積極的評価。改憲右翼から立憲勢力まで内包していた同党の綱領的なあいまいさが解消した。このあいまいさの復活を許してはならない

③立憲主義の立場に立つ勢力が明確に増えた。立党直後で共闘の当事者能力のない＊立憲民主党が共産党などの自己犠牲で議席をふやした。

④ぶ然とした表情のアベ、枝野・志位両氏の笑顔が印象的。北海道や新潟のように立憲民主党が組織として共闘に参加したところと東京では事情が違うのだろう。共産党の自己犠牲にたよれば共産党は小選挙区で候補者をたてられなかったろう。

＊@杉並の「ざんねんながら」通信での長妻氏らの応対に示されている。

【質問２】

民進党が立憲民主党になり、平和と民主主義のテーマで共闘の質がたかまった。参加する各党と個人がより一層の信頼関係の深まりが必要。現状では、区政をめぐる各党の見解が大きく離れているが、生活をめぐる問題での共闘をすすめる方策を考えていきたい。それには@杉

並での自由な論議が欠かせないだろう。また改憲勢力からの反撃もさけられないだろう。@杉並のすそ野を広げる努力をすすめたい。財政的な支援を訴えることも大切。

●郵送 25

【質問１】

どのような事情か知りませんが、統一候補を立てられなかったのは残念至極でした。２党（立民、共産）でほぼ自民に対抗、無所属さんを合わせれば完璧に勝利していましたのに。希望による攪乱（でもおかげで立民が立ち上がった）大義なき解散総選挙と激変の中で短期間に野党統一をなしとげるのは難しかったと思いますが。杉並はだめでしたが、全国的には良く戦った方だと思います。杉並、頑張ろう！

【質問２】

ごめんなさい、あまり@杉並の今までの活動を把握していませんでした。反省しています。

●郵送 26

【質問１】

残念ながら、予想どおりのひどい結果です。杉並はもしも吉田さん１人に絞れていたら、と思うとにがいです。結果は出てしまいました。これで愚かなイガミ合いや憎しみ語をぶつけるのはやめてほしい。とにかく、これからも野党は共闘です。暴政権を終わらせるためには、微力でも、共闘して闘いつづけるしかないです。

【質問２】

@杉並の市民の皆さんは実に実によくやった。大変にご苦労様でした。しかし、これで当分「対石原」選はありませんから、@杉並の解散を提案します。17 名議員が必ずしも一致できないことが見えている今、ムリに仲良しクラブの継続にエネルギーを浪費するのはもったいない。来年の区長選もせまっているし、住民無視の区政を、区政のひどさを広く区民に知ってもらって、区民がもっと多くの人々が区政を主体的に見て、区長選・区議選に真剣になるように、皆で「区政を考える会」に集中してほしいです。

●郵送 27

【質問１】

今回の総選挙が示したことは、平和と民主主義の世界を実現するためには「市民と野党の共闘」以外には道はないということです。自公勢力は解散前とは変わっていないわけで、むしろ憲法を守り、生かす立憲勢力は、国民のなかに根づきつつあるのではないかと思っています。

【質問２】

杉並で共闘が実現できなかったことは、実に残念です。とにかく、時間をかけて、それを広げて立憲勢力に働きかけていくしかないと思います。

●郵送 28

【質問１】

野党共闘をして統一候補をたてなければ勝てない。共産党が自ら候補を８人取り下げて戦った選挙区は（東京）立憲が４人当選している。一方が一方を犠牲にして統一すれば良いというのであれば互いの信頼は得られないし長続きしない！大義を明らかにしどの候補が一番ふさわしいのか決めてほしい。政党のこれまでの実績をキチンと評価してほしい。共産党は地道に誠実に活動し国会でも問題点を指摘し頑張っている。共産党は身を削って野党共闘を守り抜いた。

【質問２】

党派にかかわらず、議席獲得を目標とする為に譲るべきは譲らせ頑固として議席獲得を目指してほしい。共闘のための共闘ではなく、私利私欲で候補者になりたい人をではなく、住民のために、住民が望む候補者にして、それから外れた人には腹をくくる決断を迫るような活動であってほしい。

●郵送 29

【質問１】

残念でした。もったいないな～！と。…ぎりぎりまで共闘できるかどうか？という思いはどこかにあったものの、皆さんが約３年（？）もの話し合いを続けた結果でしたので、上記の感想に。

同時に、立憲民主党が生まれ風が吹いた今回、石原のぶてるという安倍側近を越えることが出来れば、「安倍政治 NO ！」と考えている一般市民の思いを杉並から発信し、日本中に知らしめることができたのでは？という意味でも「共産党の方々と市民との共闘の意義をアピールできたのではないかと思いました。いずれにしても立憲民主党は論理的に動き、市民とともにという枝野論を忘れずに力をつけてほしいです。皆さんお疲れ様でした。（この共闘を模索したことは救いでもありました。）

【質問２】

共闘を今後も考えつつ、一般市民特に若者への対応策が重要ということまでしか思いつきません。戦争を許さない 1000 人委員会でも毎週街宣を続けていますが、若者の無関心と右傾化への歯止め対策は分かりません。ただ、これを無視して一足飛びによい方法は知りませんので、大人の努力を続けるべきかな～と思います。

かつて小選挙区制に変えられようとした時、石川真澄氏と共にずいぶん運動しましたが、ほとんど無視され今日の一党独裁政治を生み出しました。根っこは教育です。そして個人の情報判断です。街宣をご一緒にいかがでしょうか？あるいはそれぞれで…。

今回は体調不良でお役に立てず済みませんでした。

●郵送 30

【質問１】

1. 投票総数に占める立憲民主党の得票数は多くあったとか、野党の得票数を合計すると与党と拮抗しているとか逆転しているとか、そんな泣き言をいってはいられない。「よくない」制度だと批判しても、小選挙区制は現実の制度だから、その制度の中で打勝つ方法を見出して対策しなければならない。世の中は、甘くない。善意だけ、常識だけでは済まない。
2. 杉並区の場合、野党共闘したら勝てたか。共産党お

さないさんと立憲民主党吉田はるみさんの票の合計は、石原の票に及ばない。今回の票数を単純に合計すれば二人を一人に絞っても、勝てなかった。負けたのだ。「石原落とせ」という「負のシンボル」は杉並区には品がよくないかもしれない。ここは反省点の一つである。

3. まどかさんや北島さんの応援者いくま君を抱き込もうと考えない方がよい。まどかさんのように当選しないことがわかっていても出るんだという出たがり屋の人は初めから放っておけばよい。いくま君は、私個人として好きだけれど、周りから推され、当選しないとわかっていて出る。共闘となれば、涙を呑んで、我慢しよう。
4. 選挙の始まる前から、少なくても１年前から。共産党と立憲民主党の合意が成り立って、立憲民主党の候補一本でいく、と決めてかかれば、おさないさんと吉田さんの合計した票数以上の票数が獲得できた。私はそう思う。潜在的な野党応援団は、杉並には多いのである。欺瞞だらけの希望の党の本性を見抜いている。良識派の応援団を結集できたはずである。

【質問２】

1. 政治の世界のことである。戦略戦術がいる。「善意」だけでは負ける。「善意」を抑えて、ときには「わるだくみ」もいる。「どすぐろさ」が必要である。といって、それほど多くの「どすぐろさ」があるわけではない。
2. 今回の＠杉並のように、候補者を呼んで、われわれ市民の前に連れ出して、共闘だ共闘だ、候補者が一本化すれば外れた私は降ります、そしてあなたを応援します、というがごとき「善意」＝「きれいごと」のような戦略戦術ではだめである。
3. 立憲民主党参議院小川さん、共産党書記局長小池さん、この二人と＠杉並トップ１名ないし３名（合計は奇数がよい）が幾度も話合いの場を持つことだ。公の話し合いでなくともよい。こっそり話合えばよい。そこで話合われた結果が、２項のようでは困るのである。「あとから話合って決めましょう」などと逃げ腰なら、「おまえら、無責任だ。自分のことばばかり考えている！」と激しくつめよればよい。この話し合いは、「スープの冷めていない」今から始めるのがよい。
4. その話合いで、一人の候補者を立てる。候補者の名前を具体的に決める。両党は、その候補者のために「応援する」という体制をきちんととる。そのうえで、その候補者を中心として、「緑の党」をつくる。「＠杉並の党」がよいかもしれない。候補者は、「＠杉並の党」から出馬する○○○○です」ということになる。「＠杉並の党は杉並の緑の党です」といえば区民にわかる。ジャーナリズムが黙ってほっていくわけがない。まどかさんの票も減り、いくま君の票も減る。そして「＠杉並の党」に集まる。ラディカル・デモクラシーに好意的は人たちが投票する。「＠杉並の党」を作っておカネがない、なんていわない。おカネはあとからついてくる、と信じよう。
5. 政策は、共産党と立憲民主党の最大公約数でよい。両党が出し合って、両党が合意できる政策だけに絞ればよい。むずかしく考えない。＠杉並が中に入れば、すんなりいく。「原発反対」と「憲法守る」だけでよい。あれもこれも、はよくない。焦点がぼける。

●郵送 31

【質問１】

突然の解散総選挙にまんまとやられたという苦い思いです。直前の民進党の希望の党への合流は、あまりにも腹立たしく裏切り行為に怒り心頭。しかし、民進党の分裂により、それぞれの立ち位置がはっきりとしてきたのではないかと思います。本ものの「市民と野党の共闘」はこれからと感じます。共闘の中身をしっかりさせていくのは市民の役割。そもそも国会前で「野党は共闘！！」と市民の声に押されて、動き出したわけですから、主役は市民（主権者）です。

野党共闘勢力が 38 から 69 と議席を増やしたとはいえ、圧倒的に少数。選挙制度に問題があるとはわかっていても、その制度の下で議席を増やしていくには、共闘をいかに進めるか、真剣に考えたいです。

【質問２】

注目された＠の活動で、この間、中心となって進めてきたメンバーの方々に敬意を表したいと思います。最後まで一本化できなかったのは残念でした。小選挙区候補を立てないと比例が伸びないということで８区では、共産党も候補を立てたという事情はわかりました。東京選挙区で共産党は１議席失い、全国でも議席を失いました。

小選挙区で立憲民主、比例は共産という投票行動がうまくできるとよかったのかとも思いますが、分析してみないとわかりません。

（国政と区政のねじれも気になります。）いずれにしろ、憲法無視の巨大与党に立ち向かっていくため「政治をあきらめない」声をもっともっと広げていきたいと願っています。

●郵送 31

【質問１】

1. まず最初に申し上げたいことは、伝統ある＠杉並の皆様の野党共闘実現に向けたご尽力に対し深く感謝申し上げます。
   次に、野党を一本化しなければ到底倒せない自民党のベテラン候補者に対し、個別事情に固執してみすみす労せずして対立候補を当選させた共産党の行動は全く理解できません。
   早い時期から＠杉並の皆さんが積み上げてきた努力を何と心得ているのか。選挙は死ぬか殺すかの戦いであります。
2. 今回の選挙結果は、過去の経験及び各候補者の１～２年間の活動状況から十分予測のついた結果であります。大健闘した吉田はるみ候補には申し訳なく大きな損害を与えてしまったと思うのは、私だけではないでしょう。
   また、過去に例がないくらい指示してくださった７万６千余りの杉並区支持者の皆様に。共闘せず敵に塩を与えた行動を釈明すべきであります。
3. 次に、選挙結果が判明した翌朝から吉田はるみさん

は駅頭に立ち、支持者の皆様に応えられなかったことを詫び、再度の挑戦を訴えておられます。
4. 他の候補の方々は、私の知る限りでは未だになしのつぶてであります。これは区民への本気度の違いであり、私達は区民としてしっかりとこの事実を受け止めるべきであります。
5. 野党共闘（一本化）の主旨から泡沫候補には一本化にお願いできないものでしょうか。

【質問２】

1. 皆様のご熱心な活動に深く敬意を表します。これからもメンバーを増やし一層のご活躍を期待いたします。そうして他の区の模範を目指していただきたいと思います。

以上、アンケートの回答とさせていただきます。

●郵送 32

【質問１】

＠杉並の事務局の皆様、公示日ギリギリまでの活動、本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。共産党支持者ですが今回はぜひとも８区での統一候補を立てて選挙戦を迎えたいと強い思いがありました。希望の党の出現、民進党の分裂で結果的に自民党を大いに助ける結果になったことは残念でなりません。立憲民主党の吉田さんになぜ統一できなかったのか、共産党がこれ以上小選挙区の候補を降ろすと選挙カーなどの選挙戦の体制に大きな影響があるからなどど聞いていますが、円さんが立候補してしまったことを含めて時間が足りなかったこと以外の障害について野党と＠杉並。双方合同できちんと総括する場があれば、と思います。吉田さん、長内さん、円さんの得票数は石原を上回っていたわけですから、次回は必ず統一候補で戦えば大きな展望があります。あきらめずに頑張りましょう。

●郵送 33

【質問１】

候補者一本化でこれまでやってきて、直前に政党の都合でチャラにされたのではやってられない。

【質問２】

＠杉並は一旦店仕舞いをしたほうがいいと思う。

●郵送 34

【質問１】

別紙のとおりですが、付け加えれば、

木内孝胤候補の４万１千票は軽く見ることはできません。「穏健な保守」を自称し、連合系労働組合の組織票も一定数そこに沈んでいたのではないか。吉田晴美候補は予想より健闘したとはいえ、共産党の票を足してもやはり未だしの感は強い。保守層への浸透や労組との関係強化と我々市民のレベル又は左派の主張をどう両立させるのか。政策に説得力を持たせる努力を積んだ候補者を育てていく必要を痛感します。石原伸晃はそんなに強くない。

【質問２】

別紙のとおりですが、付け加えれば、

棄権層は政党に期待していない。言葉だけで彼らを振り向かせるのは難しく、何らかの実績をアピールしていく政治家が出てこないと変わらない。「統一するにはどうしたら」という発想にとらわれず、「勝てる候補、勝たせたい候補」をどうしたら見いだせるか、ということ。政党に対して自立的、自律的な市民の動きになっていないと、政党にとっても市民にとっても存在意義が見えなくなるので、選挙の数義だけを追わずに、背後にある住民の考えを聞くことが大事。特に、区政への不満が野党への不信になっていること。

（別紙）

ご丁寧なお知らせをいただきありがとうございました。皆様の日ごろの活動に敬意を表します。衆院選の結果は非常に憂慮すべきものでしたが、私個人としては候補者一本化の活動にはほとんど参加しておらず、知人から話を聞いていた程度なので、特にコメントする立場にないのですが。一応感想まで。

いただいた報告を見る限り、最初から政党側からは相手にされていない印象を受けました。民進党の分裂がなかったとしても、そもそも杉並では一本化できなかったのではないでしょうか（円さんを除いたうえでも）。

街頭演説で、共産党の長内さんに質問したところ、候補者は答えずに、応援の山添拓議員が答えてくれましたが、「私はこの地区の党の事情を知らないから明言できないが、立憲民主党は他でも一人も候補者を降ろしていない。今度の民主党のような裏切りがあると共闘できない」といった回答で、民進への不信感と、自党が割を食っているという感情が強く感じられました。ただ話しぶりからして、「地区の事情」がそれなりに影響力を持っているように思われます。杉並ではそもそも一本化の機運が弱かったのではないでしょうか。

私の場合、民進の候補者の吉田さんには全く興味が持てなかったし、共産の長内さんについては10月に入って初めて名前を知った程度でした。友人知人の間でも政党アレルギーや議員への不信感が根強いですが、杉並の場合は施設再編整備計画や小中一貫校問題で、すでに共産以外の野党候補への嫌悪感が激しくなっていて、それが国政選挙にも決定的に作用したものと思われます。

日常的な市民・住民の運動と切り離したところで統一候補を作ろうとしても、あまり求心力は生まないと考えます。結局は政党間の調整で決まることなので、市民運動の側が政党に影響を与えるような独自の力を日常的に蓄えないと効果がないのではないでしょうか。

政党の側は勝手に候補者を立ててくるが、彼女らが日常的に何をやっているのか、私たちは知りません。自民公明への批判票として投票するだけで、野党の候補者を積極的に支持しているわけではないのです。「議員になりたいだけの就職活動だ」という見方もあります。「結局金目でしょう」「自分の党のことしか考えていない」ということで、基本的に信用していません。

市民運動をやっていても、「選挙にかかわりたくない」という人は多いです。一本化が重要だとしても、まずは「この人を当選させたい」という候補者がいることが前提です。そういう候補者が、日ごろの市民運動・住民運

動の中から押し上げられて出てこない限り、この状況は変わらないでしょう。

民進党の分裂は、彼らが「野党共闘」と言いながら、われわれ市民とは理念も運動も共有していなかったからです。選挙の時だけ口先でよいことを言っても、自分たちの民意が議会に反映されるという確かな手触りがない限り、しみんは今後も動かないでしょう。今は、背筋が寒くなるような無関心が杉並区を吹き荒れています。

● 2017年10月30日　17:41

【質問１】

選挙の結果は、考えたくもない悔しい思いで終わりましたが、@杉並で先頭に立って動いて下さった皆様に心から感謝しています。最後の最後までほんとにお疲れ様でした。ありがとうございました。

６日の会にも出席しましたが、何ともやり切れない思いで帰宅しました。色々思う所はありますが、党に属さない力のある人が立候補できていればそれが一番だったな～と、終わってから思いました。杉並は区議も党派を超えて同じ思いで動いてきてすごいとずっと思っていましたが、土壇場で崩れてしまった感じです。

譲った方は比例の票にも影響が出てしまうという厳しい現実があったのだと思います。個人的には、（区議の人達の発言には、共産党が譲ればいいのにという空気を感じましたが）立ち上げた枝野さんら数名は別にして、できたばかりの立憲民主にはまだ信頼しきれないものを感じてもいました。

期間が短かすぎました。自公政権の思うつぼでした。

【質問２】

できたばかりの立憲民主党を自分達が願った政党に育てるのもやはり市民の力なのでしょうから、運動を緩めてはいけないのでしょう。

個人的には、「安倍９条改憲NO！全国市民アクション」の行動と共闘して動いていけるといいと思っています。

● 2017年10月30日　22:35

【質問１】

なぜ統一候補を立てられなかったかと悔やまれてなりません。

まだ下井草の町内には吉田はるみのポスターが万年塀にはられています。

東京の働くママの味方

このキャッチフレーズにグッと来た女性たちの力が及ばなかったのかと残念でなりません。

私もわが社の方に何人もに聞きました。なぜおさないさんが出るの？

吉田さんでまとまって石原をおろせないの？

決まって党の票が減るからとの答えでした。

枝野さんが言っていた数合わせの論理がここにもうごめいているんだなと今更ながら思います。

嵐になるからと不在者投票に雨の中行きました。私の横の人は少し震えのある高齢の方でした。

よしだはるみ　と震えのある字が見えました。その横にはきょうさんとう　という字が読めてしまいました。胸が詰まりました。この人にこたえられる党であってほしいと強く思いました。

まともにこの情勢が感じられる人ならきっとそう書くだろうと思います。

期しくも日曜版に岸部一徳が、人を観察したければバスに乗って人を見よとのコメントを寄せていました。保守かもしれない人にも政治には関係ない人にもぐっと心をつかむ働き方を政治の場で考えていけるようこれから自分の動きを作っていきたいと思います。

【質問２】

やはりキーワードになるのは共産党との共闘だと思います。

おさないさんを推した人たちをどう広い視野に立たせるかこれはそういう人たちにもっと聞く耳を持たせるように働きかけることが重要だと思います。

あの雨の中まひのある体を押して未来を託そうとしたおじいさんにこたえる党になってほしいと切に思います。

● 2017年10月31日　21:23

【質問１】

選挙そのものは前原の裏切りで逆風がふいて全国的選挙協力ができず、安倍の目論見以上の結果になってしまい、残念です。しか協力できた県では前進したところもあり、次回の選挙では協力ができれば必ず自公政権を少数に追い込むことを証明した選挙でもありました。また、今回選挙の@杉並事務局みなさんの奮闘に敬意を表します。最後まで共闘をあきらめることなく立憲民主党、日本共産党事務所まで統一要請にいったことは今後政党同士の選挙協力の圧力になるとおもいます。

【質問２】

会議には出られませんが地元でこの力をさらに大きくするため@杉並のPRとメールやHP上で連絡をうけたことを発表するつもりでおります。

来年は区長選挙です。統一候補を@杉並から出せればこの動きは必ず再来年の参議院選挙につうじるとおもっています。

● 2017年10月31日　21:37

【質問１】

2016年から随分と多くの会議と活動されて来たんですね。この力を生かすことが出来ず悔しいです。

今度こそ石原伸晃候補に代われると思ったのですが、立憲民進党と共産党と共闘できず残念でした。新潟含めて成果があちこちで！候補者を一本化できたら、当選することができたと思うと、残念でなりません。

数の力で、全て押し切られる安倍政権は何としても倒したかったのに……。民意が反映できる政治の実現を望みます。

【質問２】

今回、自民が数で圧勝ですがこれまた選挙制度の矛盾、30数%の支持であれだけの数・票となったとの事。

この選挙制度こそまず是正すべきです。数は力なり……何といっても数が大事。民意に耳を傾けて一致でき

る事で共に行動する野党共闘を願っています。

一致点は、『自由と平和のために！』その一地点で今後も行動する議員と市民の会であって欲しいと思います。

● 2017年10月31日　23:17

【質問１】

統一候補と出来なかったことが本当に残念。私は公示目前の集会にしか参加していませんでしたが、その時の二人の候補の話す姿を見て、長内史子さんは、話し方が堂々としておらず、手の中のカンペを見るように話していたので、ご辞退いただきたいと感じてしまいました。また、円より子さんが立候補されたことに強い怒りを感じ、この方のセンスに心から失望しました。市民が統一候補を願っている状況で、何故、立候補されたのか、全く理解できませんでした。

しかし、この選挙の直前に立憲民主党ができたことは素晴らしいことだと思います。その勢いにのって、吉田はるみ候補も多くの支持を集めました。結果論ですが、共産党との統一候補となり、かつ、円より子が立っていなければ石原伸晃を落とせた数字を残したことが、返す返すも残念でなりません。

【質問２】

党としての問題もあるかと思いますが、やはり今後も粘り強く統一候補の擁立に向けた動きを進めるべきだと思います。

前回2014年との比較でいうと、石原は前回47.6%で、今回は39.22%でした。そして今回新たに候補者として立った木内は16.17%だったので、石原の票は木内に流れたと考えられるのではないでしょうか。

対して、2014年民主の円より子が30%、共産の沢田さんが15.5%で合計45.5%。今回は立憲民主党の吉田候補が29.96%で、長内候補、円候補と合計すると43.47%だったので、結果的には割合を下げているので、とても気になる数字です。

最近、民主党政権時代に多感な時期を過ごした、現在の20代、30代の自民党支持率が上がっているという分析があります。この流れに対抗するため、@杉並もこうした世代の巻き込みを考えなければ、次回の選挙で仮に統一候補ができたとしても楽観視はできないと感じています。

統一候補の擁立に向けての努力を進めるとともに、20代、30代そして、次回選挙権を持つ可能性のある15、６歳の高校生に向けての何らかのアプローチを進めて、もっとより多くの賛同者を集められるような活動ができると良いと思います。元SEALDsの方や、年齢的に彼らの世代に近い方の意見を参考に、どうしたらもっと活動の輪を広げて行くことができるのか、を考えて実践していくことができたらと思います。

● 2017年10月31日　23:21

【質問１】

民主党は、「沖縄」「消費税」で鳩山・小沢を見捨て・追い出し、公約破りの「消費税」で、まともな人間は党を去った。残りクズは当然、国民に見捨てられた。菅・野田・岡田がなおも自壊を促進。ついには20余年続いた「民主党」を一瞬にして消滅、他党に吸収という、選挙民に対する､考えられない大変な暴挙･背信行為を行った。……どうしようもない。立憲の議員も消滅吸収を受け入れた……全く信用できない。

今後は、自公に対する、ハッキリした反対軸をとらなければ、国民の支持を失う……民進党のように。

【質問２】

最大の問題点は反自公の杉並区民と「市民の会」の意識がずれていた事。

民進党の支持が10%を切り、共産党との差があまりないのに、民進を過度に慮ったのではないか？

反自公の国民は①原発廃止②９条堅持③消費税不可④沖縄基地ストップの４点と明瞭。

「市民の会」は明瞭な、国民・杉並区民の主張を、主張できなかった？

あいまいな民進・立憲、吉田はるみ候補者を排除・矯正できなかった。円・長内の両者で検討すべきだった。

今後も、自公の政策と「市民の会」の区別があいまいならば、全く存在価値はない。単なる、自公に妥協させる「ならし・だまし組織」

● 2017年10月31日　23:52

【質問１】

一本化までの長い活動を通して、最後まで一本化出来なかったことは、事務局の皆さまには耐え難い想いを、また賛同者の皆さまは大変悔しい想いをされていることと思います。結果として、またしても国民のことは二の次という議員を続けて選んでしまったことは、杉並だけの問題ではなく、国民に取っても残念な結果でした。

私の総括、ですが、希望の党の出現からの悪夢のような流れの中で、立憲民主党の立ち上げに本当の「希望」に繋げた選挙前２週間という短い期間では、なかなか一本化には厳しいものがあったと思います。

たられば、になりますが、今回は、希望の木内氏が立たなければ、勝てたと思います。木内氏の立候補が無ければ、共産党は降りたでしょう。共産党が８区で候補者を最後まで立てたのは、木内氏が出るなら、どちらにしても勝てない（自民の勝ち）ので、比例票を伸ばすためにも候補者を降ろせない、ということだったのではないかと思っていました。

しかし、立憲民主党の短期間での躍進で、自民候補に迫る勢いだったことは、選挙１週前では誰にも予測不能だったことではないでしょうか。誰も責められないと思います。（責めるとしたら、野党共闘を支援する地元団体があることを知ってか知らぬか、横から出てきた希望の党へですね）

実は、正直に申しますと、2016年の会の立ち上げ当初から、吉田さん、長内さんのお二人では、８区の石原氏に勝つのは厳しいと思っていました。

わくば、自民が名の売れた人物を突然縁の薄い小選挙区へ刺客を送るように、山本太郎さん位の知名度（例えば、snsなどで政府批判をしている高田延彦さん、松尾貴史さんなど）の候補者を立てて欲しい。その方法以外

には、保守的な有権者が根強い８区では厳しいとずっと思っていました。なのですが、今回立ち上がった立憲民主党の勢いが想像以上で、吉田さんが票を伸ばしたのは、驚きでした。それでもまだ吉田さんの知名度は低いと思っています。都議や区議の実績も無いので、次も今回の勢いを上回れるか、は疑問符です。

東京 12 区では、今回の選挙で、公明対共産の候補に絞られた結果、選択肢が無いと感じた有権者が多く、目立って無効票が多かったようですね。

公明、共産、とどちらへの拒否が多かったのかまでは分かりませんが、共産党の候補が野党統一候補となった場合、中道無党派の大きなボリュームゾーンに少なからず拒否感を与えることになりそうです。

私自身は、今の共産党はぶれずに国民に取ってのメリットになる政策を訴えて下さり、とても信頼していますが、選挙に勝つのは世論を読むことも必要だと思います。今回の木内氏がかなりの票を取ったのも、希望の党小池さんのダーティーさが、まだ理解出来ない層（都知事選、都議会選のイメージのままの層）が一定数居たこと、または、他の新人女性候補よりは、前職若手男性候補がまだ良いという反安倍ではある保守的な層が流れた、という２種類の層が居たのだろうと感じています。後半の支持層が居る限りは、次回も吉田さんでは力不足、と横から違う候補者が出てくる可能性は大きいと思います。それを考えると、今回の大河原さんのように、吉田さんも比例単独候補者となる手も有るのではないかと思います。

一番は、知名度がある候補者を立てて、一本化にどの党からも有無を言わせない強い候補者を立てることだと、まだおもっています。山本太郎さんの衆院選鞍替えなどは可能性無いのでしょうか？

今回は、ボランティアで立憲民主党のパンフレットのポスティングと、少しの電話掛けをお手伝いしました。次回も、できる範囲ではありますが、ボランティアで打倒自民候補！で共闘したいと思っています。

● 2017 年 11 月 1 日　12:10

【質問１】

結果的に一本化できなかったとはいえ、この間の活動は決して無駄ではないと思います。既成の党派に頼るのではなく､下から（一般ピープルから）の政治活動によって、既成の政党を動かすという経験は、これからの日本社会での人民運動（無名の人たちの運動）にとって、極めて重要な経験になったのではないでしょうか。

【質問２】

今後、さらに「野党共闘」の在り方をめぐり、紆余曲折すると思いますが、大事なのは誰の立場に立つかという事だと思います。その点では今後「市民」（ブルジョアジーとも言われます）」の中味を見極める必要があると思います。現在では「市民の多くは「勤労人民（労働者（ワーカー）」で、特に若い人や女性は５割以上が非正規ではないでしょうか。そして、中間層が減ってきており、「１％の富裕層対 99％の貧困者」と言われるようになってきています。ですから 99％の中で大きな割合を占める「勤労人民（労働者（ワーカー）」に依拠し、99％の階級的統一戦線を造り出すことが課題になっているのではないでしょうか。

改憲と戦争政策について言えば、それを積極的に進めているのはアメリカと日本の財界です。そして彼らが日本を実質的に支配しています。これが１％になります。党派的には「新自由主義路線」を取る､「維新」や「希望」はその補完勢力に入ると思います。「民進」もどちらかと言えばそれに近いです。「立憲民主」は「右でも左でもない」中間派ですから、どちらにも転ぶ可能性があります。だから幻想は持てません。しかし「統一戦線」では中間派をどちらが味方につけるかという事が大きな問題になりますから、下からの影響で彼らを私たちの側につなぎとめておく必要があると思います。ですから今後は「市民と野党の共闘」をバージョンアップして「勤労市民と野党の共闘」（これが統一戦線の具体的な形となるかもしれません）とした方がより立場がはっきりして盤石なものになるのではないでしょうか。

● 2017 年 11 月 1 日　12:33

【質問１】

今回、たいへんな交渉を、粘り強く、ぎりぎりまで続けられたことに感謝しております。ありがとうございました。

選挙結果ですが、吉田候補と木内候補の得票数を合わせると、石原候補に勝っていましたね。残念です。

今後は、旧民進党票が割れないようにするのが、重要だと思います。

そのためには、希望の党や現在の民進党、無所属の会（岡田グループ）とも交渉が必要かもしれません。

まあ、政党・会派間で話し合ってくれれば、いいのですが‥‥。

今回の選挙における共産党の献身的な努力には感謝の念しかありません。

共産党にも現実的なメリットがないと、共闘も長続きしないのではないかと思います。

いま、考えているのは、統一（候補）のみが共闘ではないのでは‥‥ということ。

たとえば、＠杉並、共産党、立憲民主党で、憲法カフェや子育てカフェ、働き方カフェなどのイベントをおこなって、両党やその候補者の知名度や支持率をあげていくとか、そういうやり方もあるかなと思っています。

【質問２】

＠杉並の認知度、知名度をもっとあがるといいなと思っています。

＠杉並が推薦してるからこの候補に投票しよう、と思われるくらいに。

安倍さん嫌い、石原さん嫌い、自民党嫌いという人だけじゃなく、是々非々だけど、今回は自民党以外に、みたいな人が、＠杉並は誰を推薦してるの、と気にするくらいになるといいのですが。

● 2017年11月1日　20:59

【質問1】

結果を見て、最初は吉田さんと長内さんが統一すれば勝てた、こんなチャンスなかったのに、と共産党、立憲民主党の姿勢、円さんの姿勢を責めるような思いでしたが、今は、これが、東京での市民と野党共闘の到達点とも思っています。

自民党でもない、希望の党でもない人が、杉並区にこれだけいるということがわかり、運動の成果とも思えます。

【質問2】

これから、市民は、改憲発議させない運動をすることが大事。１日の衆院会館前での総がかり集会でも、共産党、立憲民主党、総がかりから改憲発議させない運動との発言がありました。3000万署名運動が、大事とのこと。とにかく、改憲発議させないための杉並区での市民の運動を具体化することが、今後につながると思います。定点で署名行動したり、署名ニュースをだしたり、パレードしたり、杉並区民の会で、地域つどいを開いたり、国会前行動を呼びかけたり。区議さん、都議さんにも協力いただいて。

議員さんに対しては、一緒に改憲させない議員活動をどれだけ真剣にしていくのか、私は見ていきます。

● 2017年11月2日　12:22

【質問1】

獲得票の数字だけ見れば、３人の合計が石原候補を上回ってたので悔しさが募りますが、あえて、一本化しなかった・出来なかったことが私たちのリアルな現実だと受け止めるべきだと思います。全国の結果を見ると圧倒的な自公の勝利で、たとえ杉並で一議席を得たとしても悔しいことに変わりないからです。

一本化』が全国で実現できるまでの民衆力を心から望んでいます。

【質問2】

人々の『自立』というテーマが、世の中的に薄いのが一番気になります。地上で嵐が吹き荒れているのに、なびかないことが自立したイメージとは思いません。嵐の時はしなやかになびいてやり過ごし、回復した根っことして伸び続けていく自立運動となっていくを願っています。

● 2017年11月2日　17:21

【質問1】

・まず、今回の選挙は安倍の勝手な都合で「解散権」を乱用し、混乱を招いた。こうした安倍自民党の党利党略および個人の権限乱用に怒りを感じます。
・急な総選挙となり、体制作りは大変だったと思います。ましてや直前の「希望の党」「民進分裂」など、これまで野党共闘を準備していた皆さんの努力を踏みにじるものだったと思います。その点からみても今回の＠市民の活動の奮闘に敬意を表します。
・選挙結果では、結果として立憲民進党と共産党が共闘できていれば勝てたのではないか、という声も聴きますが、改めて票数を単純に換算しても、吉田票＋長内票でも僅差で石原票には及びません。改めて、円よりこ氏も含めての３者共闘ができなかったことが残念です。

【質問2】

・今後選挙の動きも大切ですが、安倍政権はいよいよ「改憲」（私的には壊憲ですが）に舵を取っていくことになると思います。共謀罪、安保関連法、そして９条の壊憲を軸とした「改憲」に対して、しっかり市民の目で監視し、批判していく必要があると思います。（すでに９条の会などありますが…もっと広範な「壊憲反対」運動として）
・この間、集会などには参加してきましたが、体調のこともあり事務局レベルでのお手伝いができなくて申し訳ありませんでした。ただ、＠杉並事務局MLには入っていますので、今後は郵送による「はがき」や「封書」は不要です。お手間を取らせますし、お金もかかります。メールですむ人は、メールのみでよいと思います。もしくは「メールマガジン」も発行されていると思いますので、そちらでまとめられる人はまとめたほうが良いと思います。

● 2017年11月2日　17:41

【質問1】

2,181票。吉田＋長内票が石原票に及ばない数。これに円（まどか）票を足すと、石原票を9,816票だけ勝っています。当初の三者合意が実現すれば、希望と関係なく勝てている票数なので、＠杉並の総括では『希望の存在は、敗因の１つでなかった、敗因は調整の不調ただ１つ』と合意してほしいです。

【質問2】

同様に１本化不調に終わった小選挙区の市民グループに働きかけて、立民・共産に対しする共同ロビィ・デーを開催しましょう。数は力なので。１本化要請署名を集めて共同提出しても良いと思います。

● 2017年11月3日　14:04

【質問1】

円さんの立候補は意地とメンツと（旧）民主党→民進党移行時の恨みつらみとしか思えず、候補者１本化への阻害要因でしかなかった。リスペクトしすぎだったようにも思います。

巷には共産党の自己犠牲による候補者取り下げ賞賛論が出回っているようですが、私はそうは思いません。政党ですから、候補を立てることによって票が割れた場合にうけるであろうマイナス評価、自党候補を取り下げ立権民主が当選した場合に得られるであろう好感度アップや次への期待など、そこは当然、計算しているでしょう。大人の対応として謝意を表しても、リスペクトしすぎる必要はありません。また、杉並で言えば、10月６日時点での長内さんは演説内容も一生懸命暗記してきたけれど、時々思い出せない、という感じでしたし。候補者としてどちらが良いかと言えば、吉田はるみさんだったと思います。

長内さんをおろせなかったのは、原田あきらさんの後釜になる区議候補として、名前を売っておこうというのが本音だったのではないでしょうか。そして、どうしても円さんが下りないなら１本化はできないわけだから、共産党もおろす必要はないという判断だったのではないでしょうか。

とにかく、次こそは必ず勝ちたい、と思います。

【質問２】

現状では隣近所に賛同人がいても、お互いにわかりません。もっと賛同人を増やしたいし、選挙期間中やそれ以前のいろいろな活動をゆるやかなかかわりで活性化させる必要があると思います。地域センター単位くらいでの賛同人ミーティングをやってみたらどうでしょうか。事務局会議に参加しない人たちの意見を聞くことも大事だし、「できること」に関わっていただくきっかけにもなると思います。

● 2017年11月3日　18:45

【質問１】

・これだけやりたい放題の政権を再選するのかと、直後は失望した。しかし、小選挙区制で民意を反映しないこと、市民と立憲野党の共闘は壊れなかったことで、気を取り直した。予想というメディアの誘導も大きいと思う。

・統一候補ができるはず、と思い込んでいたが、様々な要因があることが少しわかった。希望の党と民進党の合流？は、市民と野党の共闘潰しではなかったのか？このような中で、立憲民主が党を作ったこと、共産党が最大限の協力をしたこと、その背景として市民の力があったこと、これらに正直なところ感動を覚える。（市民がこれで充分ということではもちろんないが・・自分のこと含め）

８区で統一できなかったこと、残念ではあったけれど、希望が残ったと感じている。

・おそらく勘違いしている人たちに、次のようなことがもっと浸透したらなあ！と思った。

＊自民は保守ではない（くらしに激変をおこすだろうし、おこしつつある）

＊アベ政権は積極的に国民を危険にさらしている（テロ、ミサイル、戦争を挑発）

＊戦争は政治の失敗（相手国が狂気なのではない）

＊防衛費の膨張により、庶民はさらに苦しくなる（さらに、戦時体制になれば、命・財産をとられても何も言えない社会になるだろう）

＊改憲は国民が自分の首を絞める

＊あなたが無視しても、政治はあなたの生活を襲ってくる

＊あなたは99%（杉並に家を１軒２軒持っていようが、今、年収が１千万以上だろうが、大臣の親戚だろうが、自民の応援団だろうが、暴走政権の政策次第で、どうにでもされる99%）

＊政権交代したら就職できなくなるって本当？（これはわからないので経済学者等にきちんと解説してもらいたい。民主党政権時より就職がましになったという実感から、若者は自分が就職するまでは自民党に投票しつづけるのでは？）

等々・・・

【質問２】

・がんばってくださって感謝は尽きません。

今後・・・

・目前の改憲阻止のためも含め、賛同者をふやす戸別訪問伝道の旅に出る？？

（とても自分にはできないことを書いて、お許しを！）

・それは難しいので、憲法カフェのような、少人数で話し合える場などの勉強会を持つ。

・17＋α議員の支持者は、改憲について、大方理解していると考えてよいのだろうか？そうでなければ、まずそこを確実に、大丈夫なら、浮動票層に向けて、ということになるのでは。

・野党再編とかで、立憲主義、民主主義、法治主義の土台まであやふやなことにならないように、見ていく必要があるのではと感じた。

● 2017年11月3日　21:11

まず、皆さんの２年半にわたる様々な活動とご努力に深く敬意を表します。私のような選挙直前に賛同人になった新米に、はたしてなにか意見を言う資格があるのかと悩みながら、「広く皆さんに意見を求める」という主旨に賛成して、外から見た意見を書きます。

【質問１】

1, 総選挙について

投票前に予想していたとおりの展開になったことに愕然としています。また結果がわかっていたのに、現状を変えられなかった、私も含めて市民の力にがっかりしています。

御存知のように、自民の石原候補99,863票に対して、立憲の吉田候補、共産のおさない候補、無所属のまどか候補の票を単純に合計すると、76,283票＋22,399票＋11,997票＝110,679票となります。もし三候補が共同して統一候補を出していたら、多少の目減りはあったとしても（共同に反対する支持者や有権者もいるため）石原候補の票を圧倒していたことは、誰が見ても明らかです。

つまりこうなることがわかっていたからこそ、@杉並の行動があったと、私は考えています。今回の選挙結果をもう少しだけ、比例区の得票と合わせて詳しく見ると、

石原候補の99,863票は、杉並区の比例自民78,277票＋比例公明18,849＝97,126票と、ほぼ変わりがありません。

また希望の木内候補は41,175票、比例希望は41,793票と近似値です。

なにが言いたいかというと、杉並では保守が自民と希望に分れるという絶好のチャンスがあり、憲法を守る野党が統一候補を擁立できていれば、間違いなく勝てた！ということです。

ではなぜ憲法を守る野党から統一候補を擁立できなかったのでしょうか？

それぞれの党や各候補に、いろいろな事情がある（選挙の準備を進めてきた、支持者に申し訳が立たないなど）

ことは推測できます。

そもそも立候補の自由は誰にでも保証された大切な権利だからです。それでも、安部政権にNOを突きつけ、杉並区で必勝不敗を続けてきた石原候補に、真の野党統一候補が勝てる最大のチャンスを、私たちはつぶしてしまったのです。

2, なぜ野党統一候補を立てられなかったのか？

選挙に詳しい人や市民運動に参加している人たちでも、小選挙区比例代表並立制のことを、きちんとわかっている人は少ないのではないでしょうか。

小選挙区比例代表並立制は、地方自治体選挙や首長選挙とは大きく違って、「一人の有権者が２票投票できる」とても稀有な選挙制度です。（小選挙区比例代表並立制度自体の大きな問題点は長くなるのでここではふれません）

つまり「小選挙区での各候補の一本化」という高いハードルでは、なかなか歩み寄りは難しいと思います。小選挙区の候補一本化という狭い視野からの判断保留ではなく、ここは「一人が２票持っている」ことを活かして、常勝する「自民＋公明方式」を見習って、たとえば「小選挙区は吉田黄埔、比例代表はおさない候補の所属する共産党へ投票を！」というような提案を、@杉並から出すことは出来なかったでしょうか？

このハードルを越えられない限り、杉並では石原が勝ち続けます。ぜひここは敵の賢さから学んでいきませんか。

【質問２】

来年の統一地卯選挙、再来年の参議院選挙、そして参議院選挙の結果いかんでは衆議院選挙があるのは、確定的なスケジュールです。また憲法「改正」についての国民投票もあるかもしれません。

@杉並がこうした選挙や国民投票への幅広い受け皿、推進母体となって、さらに活動が広がっていくことを願っています。また私も微力ながらお手伝いをするつもりです。

ともかく今回の手痛い失敗をきちんと総括して、議論を深めてください。

今回の皆さんからの意見は、ぜひ公開して議論の材料にしてほしいと願っています。

● 2017年11月4日　0:09

【質問１】

８区の@杉並の会は長きにわたったこともあり、他区に自慢できるお手本になるべく会と認識しておりました。一本化に向けての最終的な調整の具体的方法こそ未定でしたが、このように市民も候補者もまとまり、絶対に一本化されるものと信じておりました。

ところが最終的に一本化ならず、茫然としてしまいました。ここまで来て何故？との思いではじめは選挙戦の応援にも支障があるのではと思ったほどでした。

ただ政党が読み間違った立憲民主党の勢いが想像以上で、それなりの盛り上がりの中での選挙応援となりました。

しかし、最後にきて、石原伸晃打倒という最初から最後までの絶対の条件が「政党のため」「ただ個人の思いを通すため」となってしまったと感じざるを得ませんでした。市民ではわからない政党内のむずかしさがあるのでしょうが、どうしても納得できませんでした。

選挙結果をみて、この残念さはますます増してしまいました。石原伸晃を落とせたという快挙があれば、日本全体に影響し、たとえ安倍政権が数で大勝したとしても、これからの自民の政策運営にも大きな影響を持てたのだと思ってしまいます。大事な憲法などにもこちら側に良い結果になったのではとどうしても考えてしまいます。逃がした魚はそれほど大きかった。

私はジャンケンで決めても一本化すべきだったと思っていました。しかし結果を見ますと、共産党には悪いけれど、この結果は立憲の風が強かったのだと思います。と言いますと、

ひとえに共産党がおろすべきだったといっているようですが、共産党の努力、大人の対応はすばらしかったと思います。

この選挙戦はいきなりの小池希望の出現、前原民進党代表の行動など想定外の事柄で進んでしまいましたが、それに最低のメリットは致し方なく立憲が登場し、それが想像以上に民意を得たことです。立憲ががんばって野党第一党になって、リベラルは何とか土俵際で踏みとどまったというところでしょうか？未だに危ない状況はかわりませんが。

全体をみますと、立憲が勝ったところは殆どが一本化されたところです。それに立憲の風が吹いてやっとのことで勝ったというのが正直なところでしょう。改めて自公の恐ろしさを感じるとともに、降りてくれた共産党に心から敬意と感謝をしなければなりません。

共産党に一本化されたところが、勝てなかったのが残念でなりません。

【質問２】

最近の選挙を通じてはっきりしたのは、勝つためにはどうしても「野党共闘」「一本化」が欠かせないことです。

その点で共産党の大きな決意、対応は本当に素晴らしかったと思います。ただ気がかりなのは、そのすばらしい対応をした共産党の票が延びなかったことです。ここまでやったのに比例票が延びなかった。結果として立憲に持って行かれたと共産党の方は感じていらっしゃるのではないでしょうか？それでも委員長は愚痴ひとつ言わなかった。本当に尊敬すべき対応です。

「もし全部が一本化されていれば、安倍政権に勝てた」などという意見も大事ですが、あまりそのことばかり強く思うと、野党の分裂を招いてしまいます。それこそが、こちらが恐れること、そして自公が喜ぶことです。トップはしっかりしていても、巷の人々は「共産党に降ろせといっているが、民進党だって降りると言わなかったじゃないか」というようなセリフも聞きます。こうなってはメチャメチャで共闘はできず、一本化できずまたまた自公政権が続き、いずれは戦争に向かうことになってしまいます。

具体的にどうしたらいいかわかりませんが、一党だけに負担にならないため、普段から話し合いを続けていく

必要があると思います。

候補者が政党に関係ない、しかし市民に信用のある人物だったらどうなったのだろうなども考える必要があると思います。

形がどうなるかはわかりませんが、何らかの形態でこの野党共闘、一本化に向けての試みは続けていくべきだと思います。今度の選挙は突然でしたが、何でもアリの安倍政権は今後も何があるかわかりません。

すでに決まっている参議院選挙に向けて、またどんな選挙も共闘は必要です（区議会議員選挙以外）

安倍政権、自公政権を変えるためだけを考えて、これからも行動しなければと思います。

● 2017年11月4日2:46

【質問1】

杉並での「円卓会議」の議論を振り返ってみると、まだ改善すべき根本的な欠陥がある。その「欠陥」を具体例を示して考えてみたい。（わかりやすくするため、数字を単純化する。）

自公政権を打倒するためには、野党共闘で衆議院250議席が必要。その場合、比例区での力関係で，立憲民主150、共産75、社民と自由25、として考えてみる。共産、社民、自由の議席は上限を表している。実際は、立憲民主170、共産60、社民と自由20、などのようになる可能性がある。

東京8区（杉並）の候補者は、吉田か長内である。全国的な調整を考慮して按分するとどちらの候補者も可能性があるが、杉並だけの事情だと吉田候補に決まる可能性大である。しかし、このような地元の考えだけで候補者を決める方法には根本的欠陥がある。なぜなら、全国的に比例区での力関係で，公正に候補者を割り振る科学的なものの考え方と正面衝突することになるからである。

【質問2】

杉並の「円卓会議」は、この問題を克服する必要がある。

● 2017年11月4日　4:41

【質問1】

まず、昨年以来の長期にわたるみなさまの諸活動と大変なご努力に感謝いたします。

みなさまの丁寧な会合の持ち方、市民の率直な声を大切にしながら、回を重ねての合意への道、とても新鮮な市民運動だと思いました。

私は、「「政治を変えよう」すぎなみからの主旨には心からの共感をいだきながら、会合にはほとんど出られず申し訳ありませんでした。いつも仲里さんを中心にした詳細なご報告や提案をいただいたことで、とてもありがたかったです。そこには書かれていない、多くのみなさまのご苦労があったことと想像しながら、拝見していました。

リーフレットやポスターも新鮮で、多くの市民が、新しい風を感じて期待したことと思います。とりわけ第4回円卓会議での合意成立は、すばらしい成果でした。

晴れやかで、希望に持ちた参加者のみなさまの笑顔は、杉並の未来が開かれた瞬間だったのでしょう。

「これで、石原10選に勝てる」と思いました。みなさまのお蔭で、大きな勇気が湧きました。友人・知人に「杉並8区では、統一候補で戦えることになりました。ぜひ協力して下さい」と声をかけました。

選挙公示前の集会でも統一候補が決まらず、会場からも「どうして決められないんだ！」という声が出されました。希望を捨てきれなかった。なかで、その後東本さんからの、短いメールが届きました。そこには、すべてが凝縮されていました。無念のお心を察し、落胆してはいられないと、気を持ち直して、可能性を追求することにしました。皆同じ思いだったでしょう。

最終日の21日、阿佐ヶ谷駅では、吉田さんと長内さんとがそれぞれに訴えている姿は、何とも残念な現実でした。このようは光景を、次回は見ないで済むようにしたいと強く思いました

選挙運動期間中の報道で、統一候補失敗の例として、いくつかに新聞に東京8区が取り上げられました。注目の選挙区だったということでしょう。

結果は「統一候補にできませんでしたが、あたらしい市民運動として、確かな意義深い活動だったと思います。この歩みは、次の活動に繋がっていくものだと思います。携わったすべてのみなさまに、感謝と連帯の気持ちです。

【質問2】

1）合意をまず破った円より子さんは、説明責任があると思います。

2）残ったお二人の候補はなぜ統一候補にできなかったのか、お二人の責任というよりは、所属の党の判断だと思います。噂では諸説流れていますが、是非、理由を明らかにしてほしいです。政党は、折角長期にわたって創り上げてきた市民の願いをなぜ聞けなかったのか、今は、全く納得できません。

3）今回の状況は、残念でしたが、決してあきらめず、参議院選挙に向けて、知恵と力を出し合いましょう。新しい歴史を私たちの手で実現したいです。

ささやかでもみなさまとともにその活動に加わりたいと思います。よろしくお願いいたします。

● 2017年11月4日　22:37

【質問1】

選挙の結果、色々な意味で残念でした。野党と考えられる立憲、共産、無所属の票を合わせれば、十分に自民を落とすこともできたのですから。政治の裏側には色々なことがあってやむを得ないこともあるのでしょう。

でも告示日ぎりぎりまで野党統一候補を模索された@杉並会の皆様に心から敬意を表したく思います。

【質問2】

次回こそ、野党統一候補をはやめに定めて広めて行きたいですね。

● 2017年11月5日　10:24

【質問1】

ご連絡せずに申し訳ございません。杉並区から京都府南丹市美山町に自主避難し、美山診療所で介護職をしながら大飯原発再稼働反対！行動頑張っております。

こちらでも日本共産党の選挙カーに乗り初めてアナウンサーをしたり、チラシ配りするなど頑張りましたがメディアが選挙前に自民圧勝と先導した通りの結果になりました。

結果をみても予想通り立憲野党統一候補が実現出来ていたらアベ政権退陣させる事が出来たのでは・・・と、残念でなりません。

安定ヨウ素剤事前配布に向けた活動していても、市は府の顔色を伺い、府は国の顔色伺い、国民の命を大切にしないアベ政権のもとでは、何をやってもラチがあきませんが「諦めると思うツボ」と、頑張り続けます！

● 2017年11月7日　5:40

【質問１】

大義の無い選挙、税金の垂れ流しではあった。また、８区は６どもえとなり、分裂も極まったが、ここまで来たらこのピンチを、チャンスに変えるしかないと思い、自分なりに出来る範囲で選挙の手伝いをした。その中で、立憲民主の吉田候補は善戦した。

２年間の地道な地区回りとともに、ご本人を支えてきた民主党はもとより、杉並の有志の方々、@杉並の力もあったと思うが、基本的にはご本人がよく努力された、ご本人の力と執念が勝ち取った、石原に次ぐ２位であったと思う。

石原を倒すにはどうしたらよいか。もっと時間があればと悔やまれるが、嫌がる人は多いが、私は人格攻撃にしない巧みなネガティブキャンペーンを含め、なぜ石原が勝つのか、石原の地盤に食い込むなどは容易に出来ることではないだろうが、もっとそこを研究したかった。

【質問２】

つぎの総選挙は必ずあるのだから、@の活動を地道にアメーバのように進めていくしかないだろう。その中で、今回のようにいきなり選挙になって唖然とすることのないよう、緊張感をもって進めていくべきだと思う。

１）市民街宣の継続（常にどこかで）―@杉並が訴えたいことは何なのか

２）投票率をあげるために、引き続き、「楽しい」街宣を目指す。

若い人の意見を大いに取り入れつつ、分け合える役目を分け合い、一部の人に負担が行き過ぎないようにする。

３）立憲民主をワッチし、育てていくための資料の、市民への供給

４）学習会（喫緊には来年にかけての憲法問題・国民投票問題）の継続

５）野党統一への引き続きの模索―立憲民主・共産党への働きかけと比例の研究

６）杉並の議員さんといっても、活動中は会議への参加も共産党さん以外はほとんど望めなかった。その辺の整理と確認。

こうした活動を通して、賛同人をともかく増やす。今回の選挙の反省にたってと、訴える。

● 2017年11月13日 1:15

【質問１】

なぜ、東京８区で統一候補の擁立ができなかったのかは、個別に分けて勘案する必要がある。

東京８区で共産党が吉田はるみに統一できなかった理由

１　民進党都議選での惨敗

２　共産党が比例票の関係でおさないさんを降ろせなかった

東京８区で立憲民主党がおさない史子に統一できなかった理由

１　本人が直前まで準備をしている様子がうかがえなかった

２　力量が感じられなかった

統一できなかった共通の理由

１　野党候補乱立

２　区政での区議の対立の構図

東京８区は「戦う前に負けた選挙区」でした。@杉並は、「候補を統一できれば勝てる可能性のある選挙区」だということを言いつづけてきたので、裏を返せばそういうことになります。@杉並は野党共闘を求め、活動を積み重ねてきました。全国的に見ても進んでいる方だと言われていたこともあります。当然、政党は私たちの活動を知っているはずでした。何度も、お願いをして統一候補の擁立を訴えてきたのですから。なぜ、統一候補の擁立を成し得なかったか、政党から返答をもらうべきだと考えています。

民進党前原誠司氏の行為は結果的には立憲民主党が立ち上がり、野党第一党を生むことにつながりましたが、私たちは翻弄され、統一候補擁立の訴えを誰にしたら良いのかも手探り状態に陥りました。共産党本部へ行ったときは、「これ以上、降ろすと比例の宣伝カーが出せない」と言われました。比例を重視する気持ちは分かります。ただ、実際、東京８区で共産党が候補者を立てたことは、はたして共産党の比例票につながったのでしょうか。そのあたりの共産党の分析結果が知りたいところです。

分裂選挙に先立ち、それぞれの共産党おさない史子さんと立憲民主党吉田はるみさんの応援先の情報を流してメルマガ配信は一旦休止。ツイッターとフェイスブックはなるべくお二人を応援できるように平等にに配信しました。メンバーが両陣営に分かれての応援は、辛かったです。一緒に一人の人を応援することができればと何度思ったことでしょう。投票日前日に阿佐ヶ谷駅の南と北に分かれて両陣営が最後の訴えをしていました。もし一本化できていればとこの日も忸怩たる思いでした。８時のマイク納めが終わった直後@杉並メンバーは、駅前に集まりました。最後まで正々堂々と選挙戦を戦い抜いたメンバーはお互いの労をねぎらい、抱き合いました。こんなに、美しく、そして切ない場面はありませんでした。私たちは、よもや統一できないまま公示日を迎えることになるとは思っていなかったのです。甘い見通しだったと言われればその通りです。

@杉並事務局は、戦略ゴールをはっきりと立て、そして、どう臨むのか戦術を立てているところでした。具体的には、「もっと賛同者を増やす」「地域で候補者を呼び

タウンミーティングを行う」「賛同してもらえる市民団体との関係構築に力を入れる」など良いアイデアがたくさん出ていました。いつ選挙があっても良いようにもっとそういったことを早めにやっていこう。その方向性が提示された時に起こった突然の解散総選挙でした。それは、私たちの大きな計算ミスでした。もっともっと早くスピード感を持ってそれをやっていれば結果が違っていたのかもしれません。最後の候補者を呼んでの円卓会議からも日にちが空きすぎていたし、候補者と膝詰めて話すであるとかやれることはもっとあったはずです。

東京８区の特殊な事情もありました。東京８区はカオスです。野党側候補が実に５人もいたのです。共産党と立憲民主党が統一できていたとしても、野党候補は５から４に減るだけです。それで、統一と言えるのかという問題もあります。しかし、石原伸晃に対抗するのはこの人だ。＠杉並が全体で推す人はこの人だという打ち出し方ができたはずで、それは勝利に結びつく可能性もあったと思います。

私は、今、東京８区が今回統一できなかったことが残念であると共に、統一できなかったことで新たに見えることがあったと思っています。都内で統一して勝てた地域もありましたが、その地域は、本当に市民の声が反映される形があり、政党同士の話し合いがあって、統一できたのでしょうか。本当に納得いく形での統一だったのでしょうか？振り返って、東京８区でもどちらかの候補が降りていさえすればそれで済んでいたのでしょうか。政党に市民の思いが伝わっていなかったことを自覚すると共に、次こそは自民党候補者を小選挙区で勝たせないために、市民と政党の厚い壁を薄皮をはぐように取り除いていくような地道な努力が今後も必要不可欠だと思います。

【質問２】

できることも限られている。時間も資金もない。市民運動はまだまだ小さい。そこを自覚して、乗り越えなければならないことは乗り越えていこうという気持ちを市民の一人ひとりが持たなければいつまでも、東京８区は衆院選で勝つことは不可能です。私たちの声が政党にしっかりと届くような力を蓄えなければなりません。＠杉並という存在をどうしていくかは、事務局メンバーだけで決めていかれることでもないと思います。統一候補擁立ができず、石原伸晃氏に勝てなかったので、閉じますということでは賛同者に申し訳が立たないのではないかと思います。今後＠杉並をどうした方がいいのかはみなさんとじっくりと考えていきたいと思います。

● 2017 年 11 月 15 日 0:35

【質問１】

円卓会議などで候補の一本化のための努力を重ねてきたのに、直前に希望の党ができて民進党がバラバラになったことで、一本化どころか６人の候補が乱立する状況になりました。石原伸晃の弱体化が露わになり、一本化できていれば勝てた選挙結果だっただけに、非常に残念に思いました。

やはり政党任せの一本化ではなく、市民が「議員にしたい人」を選び、各党に推薦を求めるという方法がベストだと思います。

【質問２】

次の衆院選３～４年後だと考えているので、当面は改憲などの政治的な課題についての活動を続けて欲しいと思いますが、区政や選挙以外の国政の問題（教育や反原発な ど）に携わっているメンバーが多いので、これまでのような頻度での活動は難しいのではないでしょうか？

● 2017 年 11 月 16 日 11:28

【質問１】

全体を見ると改憲派議席が３分の２を占めるという結果をつくり出したのは極めて苦しい状況になってしまった。しかし、野党共闘をして戦ったところで当選も出ていることは共闘の成果だと思う。

８区での結果も残念ですが、市民と立憲野党との共闘というものができていればという思いと野党共闘こそが政治を変えていく唯一であることを再認識できたと思う。バラバラでは勝てないが共闘すれば勝てるということが立証されたという点で次につなげられる。

市民が政党に対して距離感を持つという中で、メディア支配のもと争点をはっきり伝えないことや小選挙区制度などがますます市民を政治から遠ざけるものが作用しているとも思う。このメディア支配をどうするかは大きな課題だと思う。

【質問２】

市民と政党との距離感があるなかで、市民の政治参加を広げていくために市民運動の果たす役割は大きいと思う。引き続き＠杉並の取り組みに期待するところは大いにある。そのために、取り組みの総括をきっちり行い、多くの市民が納得できる方向にバージョンアップができれば良いなと思う。その中で安倍９条改憲を止める取り組みに合意させることが大切ではないだろうか。

● 2017 年 11 月 17 日 14:53

【質問１】

以前から個人的な想いとして、鳩山さんや小沢さんがいなくなったあとの民進党に良い印象を持っていませんでした。８区では何回目かの円卓会議で民進党に見切りをつけました。

業を煮やした市民が、連合に対しての考えを吉田はるみさんに尋ねた際の彼女の答を聞いてです。

それは、自分は連合に物言える立場にないと暗に示してしまうようなものでした。今後に期待する気持ちはそこで失くなりました。市民に対する誠意より連合の支持を大切にする方と受け止めた訳です。

といって…円さんのように反原発！と威勢よく口にされたとしても、それが当選後絶対保証される訳ではないのですが…。

また、野党共闘における党の姿勢に関して。

小沢氏が以前からしきりに（左に右に動き？）野党が一つにまとまることを念頭に努力されていましたが、結

局民進党自体がハッキリせず、結果前原氏を通じて再編となり、２つに分かれて分かりやすくなったとは言えども、現在立憲民主党においても、従来通り共産党との間に一線を引いて、どうでも良い”反共”、共産党排除の雰囲気を維持しているように感じられます。

それが党の戦略だったり連合や経済界？への責任回避、或いは本心であったとしても、どうしても冷たいものに感じます。

それはいずれ、国民に対しても同様にはね返る危惧があります。本当に国民の為の政党かどうか。なにかひっくり返されるのではという不信感です。

枝野さんの三年前の改憲試案（元自民の小沢さんや鳩山さんも同じ様な案だったかもしれませんが…）や、山尾さんの横浜市長選での応援問題などにも納得していません。

それでも、一本化されればもちろん立憲民主党に投票するつもりでいました。が、そうなりませんでした。

一本化できなかった理由？について、＠杉並さんからの質問に立憲民主党は、丁寧に答えた共産党と比べ誠意ある回答をしたように見えませんでした（悪く言えば鼻にもかけていない、上からという態度に感じられてしまう）。

で、今回は死に票になるかもしれないけれど、ブレない共産党への支持として若い候補者・長内さんに投票しました。

現実的に、今後戦争や厳しい労働環境を強いられるのは若い人たちです。その代弁者としての期待です。

特に共産党が好きなわけではありません。

（近年著しい公務員と民間の給与格差に手を入れようとしたのは旧民主党以外見当たりませんし…）。

それでもとりあえず共産党を支持するのは、ただ単純に、戦争はしない、自衛隊は普通に憲法を読めば違反である、憲法は理念であって高い理想を下ろすと なし崩しに国が壊れていくという思いが共通するから。譲れない根幹のところが合うのが、共産党なだけです。

自衛隊加憲ではなく防衛費（軍事費）を減らす、自衛隊は解体し国際災害救助隊のようなものへ作り変える、現実に憲法を近づけるのではなく、憲法に現実を近づけていく努力が国を維持する方法だと思います。

素人ですが、防衛は最低限に。海上保安庁などで治めて行く方向へいって欲しいと思います。

【質問２】

立派な活動だと思っております。でも少し無理がないのかなと思わなくもないのは、（政党ありきの）議員と一緒に活動していることでしょうか。

議員と市民が協働するのは個人的には楽しくもあり、とても素晴らしいと思うのですが…、市民側が友達やアイドルのように思い入れたり、自分の要望を聞いてもらい議員に動いてもらおうと思っても、議員の側は、自分の議員としての生き残りや（市民よりも）まず党の意向が大切と考えて場合が殆どだ思います。そこに齟齬が生まれてしまうのではと。

今回の選挙での、一応野党第一党だからなのか？民進党ありきの雰囲気があったことにも疑問がありました。

またこれは＠杉並でのことではありませんが、選挙が近づくと思ったことも言えなくなる全体主義の雰囲気がとても窮屈で、そんな理由から私個人として自分ができることというのは限られてくると感じました。

この会の究極の目的は、選挙で勝つことなのだろうと思いますが、そこが先走ると普通の市民は気持ちが引いていくこともあるかと思います。

まずは市民の間の学習（啓蒙活動？）や懇親、思ったことを言い合えるような信頼関係をできるだけ築く、趣味などの市民参加など…宗教には勝てなくても共同体の意識が持てるような地道な活動も良いように思いました。

本来は組織票やお金が動く企業体？とつながったり、ミーハーな日本人が食いつくような候補者やコネクションが必要な気もしますが…。

選挙ではできれば既成政党よりも民間からが理想かなと思います。

● 2017 年 11 月 17 日 18:28

＠杉並の今後について、アンケート集約をして頂きありがとうございます。

以下意見を送ります。

まず、この間の経緯を確認すると、区議会における超党派の取り組みは、秘密保護法の強行採決前後から始まっています。

2014 年 12 月 2 日、区役所で超党派の議員有志により秘密保護法に反対する合同記者会見を行い声明を発表、4 日には市民とともに内閣府に申し入れ行動を行いました。

2015 年にはメンバーを拡大した形で「違憲立法に反対する議員有志の会」を立ち上げ、6 月 21 日、7 月 16 日にそれぞれ声明を発表、断続的な共同街宣を行いながら、8 月と 12 月の 2 回にわたり安保法案に反対するチラシを作成し、区内に大量配布を行いました。

このような幾年かにわたる議員による超党派の運動があり、市民からの呼びかけに応じて、総選挙における野党統一候補の擁立を目的とした「自由と平和のために行動する議員と市民の会＠杉並」（以下、＠杉並）の結成につながっていると認識しています。

結果的には、＠杉並の皆さんの並々ならぬ努力にも関わらず、総選挙では野党は分裂してしまいました。他区に先んじて超党派の取り組みを行ってきた杉並において野党統一候補を実現できなかったことは本当に残念でなりません。「仮に」を言えばキリがありませんが、もし野党統一候補を実現していれば小選挙区で勝てた結果であっただけに悔しさが増します。

加えて苦言を言うならば、、、総選挙直前の＠杉並集会で共産党国会議員の挨拶において共産党候補に野党一本化を要望している旨の発言には正直大変驚きました。私たちには何も知らされておらず、＠杉並のメンバーもほとんどが知らなかったとのことでした。なぜあの場でああいった発言をする必要があったのか疑問ですし、少なくとも事前に伝えるべき類の内容でした。この点についても残念な出来事でした。

様々な方が様々な思いを持っているかと思いますが、

@杉並として、結果としてなぜ野党共闘に至らなかったのか冷静な分析を行い、総括文を出して頂くよう要望します。

総選挙の野党共闘は実現できませんでしたが、今後ともアベ政治に対抗するための超党派運動、特に憲法改悪に対する超党派の取り組みは一層連携、強化していかなければなりません。

総選挙における野党分裂という事実を乗り越え、気持ち新たに次の運動に向かうためにも、「総選挙で野党統一候補を」という目標を掲げた@杉並についてはその役割が終えたと理解し、解散するよう要望をいたします。仮に、会の総意により存続された場合においても、今までの「議員と市民」という枠組みはなじまないと考えますので、仕切り直しと名称変更を行うようお願いいたします。

これまでの長期にわたる@杉並の皆さんの行動とご努力に敬意を表して、以上の意見といたします。

● 2017年11月18日 1:26

【質問1】

今回の選挙では、@杉並は市民団体としての準備がやはり不十分であったことは否めないのだと思います。「どこかが一部崩れても統一候補に向けての話し合いを続けられるだけのスペースを確保できる議論のテーブル」をまだまだ用意できていなかった段階で選挙になってしまった、という状況でした。

他の地域とは違い、1年以上前から野党統一候補に向けて動き出していたのに、最後の最後で地域での活動を政党や候補者にわからせることができなかった、特に、共産党の党本部に対して論拠のある影響力を持てなかったことが、本当に悔しいです。

【質問2】

まず、「議員と市民の会」であることの利点を、日常の活動においても選挙の時においてもほとんど活用できていないので、議員との関係を見直す必要があると思っています。市民運動として、地域社会の中に裾野を広げてしっかりと根を張っていくために、必要な見直しだと思います。

次に、今回の衆院選の結果は改憲に向けてGoサインを出してしまったようなものなので、会の目標設定を改めてやり直す必要があると考えます。杉並の地域において、改憲阻止の機運を作っていくためのチームとして動いていくのか、野党統一候補を立てる市民連合的な役割を果たす組織になっていくのか、その根本は同じ理念に立脚しているのだとしても全くベクトルは違うと思うので、きちんと方向性を決めて、目標を定めて活動していきたいです。

記憶の新鮮なうちに、年内に2017総選挙の総括を終え、年明けから組織の再編と目標設定をして動き出せるようにできないかなと、個人的には思っています。今回のように準備のできていないうちに不意を突かれて市民運動が崩されるようなことを今後も繰り返していたら、外側から@杉並を見ている潜在的関心層は、私たちの組織への信頼も政治へのかすかな希望も失ってしまい、運動を作るどころではなくなってしまうと思うからです。私も含めみんなかなり疲れているので厳しいのは重々承知の上で、それでも、安倍政権の支持率が落ちている中での選挙なのに相手の作戦勝ちでこちらが負けたことを考えると、すぐさま次に向けた動きをしていかないといけないな、と危機を感じています。

● 2017年11月18日 18:32

【質問1】

私は2015年より「意見立法に反対する議員有志の会」に参加してまいりました。その後、その延長線上で市民の呼びかけのもと立ち上がった「自由と平和のために行動する議員と市民の会@杉並」は総選挙の野党統一候補を擁立することを目的に年月を重ねながら活動してきたと認識しています。

最後まで野党統一候補実現に奔走された@杉並の皆さまの努力は承知しておりますが、野党統一候補に向けた詰めが甘くはなかったか、なぜ実現できなかったのかを明らかにしていただきたいと思います。一本化していれば勝てた選挙だっただけに本当に残念でなりません。

【質問2】

今後も安倍政治に対抗するための超党派による運動は必要だとは感じていますが、総選挙で野党統一候補を目標に掲げた@杉並についてはその役割を終えたと理解し解散することを要望いたします。

● 2017年11月20日 12:31

【質問1】

達観したようなことを言えば、どうあれこれが民意であり民主主義というものだろうと思います。民主主義は衆愚の一面もあるだろうし、うつろいやすいものだとも思うからです。だからこそ、（このクニの）民主主義は難しく、そして大切なんだろうと思います。

杉並に限ってみると、いわゆる野党統一候補が立てば石原さんが落選した可能性が非常に高く、その面を捉えると、統一できなかったことは、たいへん残念だったと思います。さまざまな“おとなの事情”があったのでしょう。しかし、そんなことすら超越して考え、取り組まないと、状況がかわらないと私は思います。どちらが、誰が、ということでなく、お互いが歩み寄ることが不可欠だと思います。そして、それを広く国民に、市民に、わかるように説明することが大切だと思います。そうしたところ、訴求力が、いわゆる立憲野党にも今一つ足りなかったように思います。

一方で、これは選挙制度の問題・課題もあると思います。私は、政党交付金と小選挙区制をなんとかしてくれないと。と思っていますが、政権交代を可能にした小選挙区制度、これ本当に必要なんでしょうか。二大政党制がなんとなく“良きもの”として語られているフシがありますが、私たちの国民性も鑑みるに、いろいろな考えの人（政党）が登場して、駆け引き綱引きするほうが、より良きものが出来上がるような、そんなふうに感じます。

私は母の影響や、職業もソーシャルワーカーなので、

政治は暮らし。という思いが強く、権利である公民権は行使するようにしていますが、表立った政治活動のようなものはしていません。@杉並（さん）の動きは追っていましたが、今回の解散ではじめて賛同という意思を示しました。

それだけ、私にも危機感があったのだと思います。何が危機かと言えば、私たちの社会が公正でなくなりつつある（と感じている）ことです。それは、やはり政治にも責任があるのだと思います。

それにしても。顔が良く見えるように。ということなのでしょうが、ほかの候補者と違って、阿佐ヶ谷駅で「一段高いところ」から頭を下げていた石原さんが印象に残ります。高いところにいる石原さんに、下界はみえないのだろうと感じます。高いところにいても、低いところにも降りられる。そんな人を国会に送り出したいですね。

その政治を大きく変えることが出来なかったという点は悲しい思いでいますし、そんな大きな社会と時代のながれ中で、自分にやれることをやろうと思ったりしています。

【質問２】

自分では何も、活動やお手伝いもしていないことは重々承知の上で述べます。

今回、私がよくわからないのは、途中から円さんの姿が見えなくなったと思ったら、いきなり立候補してた。という印象なんですね。確か３者で話し合うというような流れと思っていたのに。なにかあったのでしょうか。

何か妙案がある訳ではないのですが、ひとつだけ感じていることを述べます。

杉並に限らずという話なんですが、意見や考えの違う相手であっても、それで何かをどうにかしようと思った時に、そんな時こそ、そんな相手だからこそ、敬意を払うことが大切なんだろうと思うんですよね。

だから、「アベ」「石原」と、そんな呼び方を耳にするたびに、なんとなくこころが痛むんですよね。憎悪を攻撃的に（な表現で）ぶつけてしまうと、それが跳ね返ってくるんじゃないかと私は思うんです。

20代の保守化なんて報道もありました。阿佐ヶ谷や高円寺で私もよく（酒を！）飲みますが、政治に関心のない（？）若い人たちは、戦争反対！改憲反対！基地反対！原発反対！アベ倒せ！！！なんていうことをきくと、自由や平和を叫ぶヒトたちは、なんだかおっかない。そんなふうに思うようなんです。

一見、安倍さんはソフトでスマートな印象ですからね（品のないヤジが実は多いが）。自民党のヒトたちは声高に反対！なんていいませんから（笑）。今の20代や30代前半の人たちは“保守”なんですよね。だって、守らないと、先々自分の暮らしがどうなるかわからないんですから。

なかなか“打って出て、変えよう”なんて思わないんだと思います。そのかわり、なんだか強そうなものに従っていたい。（例えば、就職先でも大企業や公務員など）そんなマインドなんだろうなと感じます。

安倍さんが、決していいと思っているわけではないんですよね。今の若い人たちは、真面目で、よーくみていますから。だから、自分の身のまわりを保守して、その外のことにはかかわらない。そんな感じなのかもしれません。

でも、若い人に限った事ではないんですよね。これ。世界全体でそういう雰囲気になっている。だから、２度の大戦を経験した私たちは、「なんとかしないと」ならないのだろうと思います。

脱線しました。

自分の考えを“正義”と思った瞬間に、なにかが歪む。私は、しごとをする上でもそんなふうに思っています。

私も、戦争反対！改憲反対！基地反対！原発反対！アベ倒せ！！！って、思っているんですよ。大切なことは、それはなぜか。とうような事実を「伝わるように、相手が納得できるように、どのように届けるか」というあたりなのかなと思います。だから、圧力でなく対話が大切なんですよね。

入口というか、多くの人が乗っかれるプラットフォームをどう構築するかというようなことかなと思います。（すみません。口ばっかり。）

● 2017年11月20日 15:28

【質問１】

質問１に関してはここでは特にありません。

【質問２】

質問２に関しては、ここは一度解散をして、次回に向けてはゼロベースから再スタートするのも良いかと思います。

また会の性質上、議員と市民を無理に結合することに固執せず、たとえば「市民連合の杉並支部」のような形で再スタートを切る、ということも選択肢の一つかと思います。その方が、市民も議員もお互いに動きやすい、やりやすいのでは、と。

● 2017年11月20日 22:13

【質問１】

野党共闘において、政権交代が狙える時の選挙では、選挙区・比例区合わせて最大数になるよう候補者を配分することが、最優先課題になるでしょう。

しかし、まだその段階ではない時においては、目標は多元化します。先ず、野党共闘の経験を増やすことが重要な課題になるべきだと思います。成功例・失敗例含めて『野党共闘で選挙区を闘う』経験は、必ず地域の肥やしになるでしょう。組織の拡大だけが力の蓄え方ではありません。地域に力を蓄えること、今のところ唯一の政権交代の戦略である野党共闘の正否は、ここにかかっていると思います。

【質問２】

今のままで、次回の衆院選に備えることは組織的にできないでしょう。事務局メンバー及び多くの賛同者の方々は、反安倍でまとまっていますが、区議会議員の方々は田中区政において、与党と野党に分かれており、この引き裂かれた状態を克服しなければならないからです。しかしこの克服は@杉並のテーマではありません。

区政は棚上げし、国政だけに関与するという使い分け

で、パワー全開といくのでしょうか？　あとは市民運動として再スタートするかだと思います。

● 2017年11月20日 23:54

おもいつくまま、まずは書きます。

・選挙に負けたのは明らかに力不足だったのは否めない事実。統一しない政党を理由にするのは短絡的である。
・都内を見ても（杉並のなかでも）あらためて市民側に歩み寄る共産党の潔さと党の求心力には頭が下がり涙がでた。
・@杉並は2年。政党はそれぞれの歴史のなかで培ったポリシーや政策実現への道があり、@杉並の活動ではそれを超えるものを提供できなかった。
・都内で統一できた選挙区もある。できなかった杉並は、あらゆる可能性を持ったそれだけ貴重な選挙区とも言えるのではないか。
・区内で当然ながら画一的な活動ではなく、町会単位くらいでの賛同を増やす地域別の努力が必要だった。ただし、町会ごとのしがらみや人間関係は、一筋縄ではいかない。町会に入っている者しか解らない面も多い。
・つい「戦略」「戦術」というが、私たちがその言葉に惑わされていなかったか。小手先のことだけではなく、信頼される活動を深める努力が足りなかった。何をしたい会なのか、それがよくわからなかったのではないか。
・会の賛同人である区議のひとり一人が、この件で結集して一枚岩になっている様子ではなく、その原因が仮に区議会における会派や区議同士の様子にあるとしたら、大変に残念である。
・キックオフ集会から円卓会議まで、衆院選にむけた活動でスタートさせたが、2016年の参院選、都知事選、2017年の都議選、会として一候補者を応援してみたり、個々に応援してみたり、一人区と複数区では違いがあるものの、外から見ていると会のポリシーがわからなかった部分もあったのではないか。
・賛同人の合意形成が不十分なままに選挙を迎えてしまった結果は、私たちの責任である。
・努力不足の結果を真摯に受け止め、次のアクションを考えるほうが得策。
・本来、リベラルとは革新派であるが、対局にあるのが保守派。立憲がリベラルで改憲が保守という、世界的にもめずらしい状況に、多くの有権者にその意味するところが伝わらなかった。
・自公政権に任せれば、とりあえず良いではないかとみる若者が多い現象。数年前の韓国も同様だった
・会は一度は整理、国政へのチャレンジは仕切り直しとしたほうがよいと思う。新生すれば新しいメンバーも入る可能性もなきにしもあらず。
・区政、都政はこの会の中心の活動におかないほうが良いと思う。なぜなら、すでに活動しているグループもあり、合体するというわけにもいかない。
・政党および候補者への投票行動をみると、都内の地域別課題で一定の法則が見えてくる。まずは、地域がボトムアップした政治を行わなければならない。
・JCなどがやったが、違う立場で、やはり与党含めた候補者一覧の作成や集会を開催してみたかった。

結論

・政党を理由にしない。こちらの力及ばずだった。
・あえて議員と市民としたが、区議、また杉並選挙区の都議を巻き込んだこともできなかった。これはかなり影響している。
・リベラルが保守的政策である。一般生活者のなかに現状を浸透させるには十分な時間の確保と用意ができなかった。

2017 衆議院選挙結果アンケート「質問 1　選挙を振り返って」のまとめ

2017 年 11 月 23 日
自由と平和のために行動する議員と市民の会＠杉並

このアンケートは 2017 衆議院選挙の直後に、郵送とメールで＠杉並賛同者を対象に実施したものです。
質問 1, 選挙を振り返って
質問 2, 今後の＠杉並の活動に対する意見
11 月 20 日までに郵送とメールで＠杉並事務局に返送された 68 通の回答をまとめました。
ご回答をお寄せいただき、どうもありがとうございました。ご回答の全文は、「総録」に掲載しました。

2017 総選挙の投票結果

多くの方々が、「残念である」とか「悔しい」と回答しています。その原因について、ご回答で得票数を分析していただいた報告を引用いたします。

自民の石原候補 99,863 票に対して、立憲の吉田候補、共産のおさない候補、無所属のまどか候補の票を単純に合計すると、76,283 票＋ 22,399 票＋ 11,997 票＝ 110,679 票となります。
もし三候補が共同して統一候補を出していたら、多少の目減りはあったとしても（共同に反対する支持者や有権者もいるため）石原候補の票を圧倒していたことは、誰が見ても明らかです。つまりこうなることがわかっていたからこそ、＠杉並の行動があったと、私は考えています。
今回の選挙結果をもう少しだけ、比例区の得票と合わせて詳しく見ると、石原候補の 99,863 票は、
杉並区の比例自民 78,277 票＋比例公明 18,849 ＝ 97,126 票と、ほぼ変わりがありません。
また、希望の木内候補は 41,175 票で、比例希望は 41,793 票と近似値です。
杉並では保守が自民と希望に分れるという絶好のチャンスがあり、憲法を守る野党が統一候補を擁立できていれば、間違いなく勝てた！ということです。
ではなぜ憲法を守る野党から統一候補を擁立できなかったのでしょうか？それぞれの党や各候補に、いろいろな事情がある（選挙の準備を進めてきた、支持者に申し訳が立たないなど）ことは推測できます。そもそも立候補の自由は誰にでも保証された大切な権利だからです。それでも、安部政権に NO を突きつけ、杉並区で必勝不敗を続けてきた石原候補に、真の野党統一候補が勝てる最大のチャンスを、私たちはつぶしてしまったのです。

2017 総選挙の敗因

誰が悪いのかを言い立てることではなく、何が悪いのかを分析することは、とても重要です。ご回答のなかからピックアップしてみました。その前に、まず大事な意見から、

○結果は出てしまいました。これで愚かなイガミ合いや憎しみ語をぶつけるのはやめてほしい。とにかく、これからも野党は共闘です。暴政権を終わらせるためには、微力でも、共闘して闘いつづけるしかないです。

【＠杉並の問題】

○杉並の賛同者でありながら、何もしなかったこと反省している。（数名）
○賛同者わずか 600 名では足元を見られたと思います。そもそも、17 名の区議は 2000 票以上で当選した方たちです。2000 × 17 名＝ 34000 名会っても良いはずです。
○「＠杉並」の力が政党に圧力になるほどのものではなかった。野党統一候補を望んだ多くの方々にまだ＠の存在が知れわたっていません。
○民進党の支持が 10％を切り、共産党との差があまりないのに、民進を過度に慮ったのではないか？
○「石原落とせ」という「負のシンボル」は杉並区には品がよくないかもしれない。ここは反省点の一つである。
○「小選挙区は吉田候補、比例代表はおさない候補の所属する共産党へ投票を！」というような提案を＠杉並から出すことは出来なかった
○政党任せの一本化ではなく、市民が「議員にしたい人」を選び、各党に推薦を求めるという方法がベスト。最後は、じゃんけんで決めてもよかった。
○区内で当然ながら画一的な活動ではなく、町会単位くらいでの賛同を増やす地域別の努力が必要だった。ただし、町会ごとのしがらみや人間関係は、一筋縄ではいかない。町会に入っている者しか解らない面も多い。

【選挙制度・社会情勢の問題】

○突然の解散選挙で、候補者について正しい情報が有権者にない。
○投票率が低かった。棄権者の分析がどこかであったら、知りたいものだ。
○小選挙区制がまったく民主的でない
○希望などのウソを見られない層の問題
○希望による攪乱
○期間が短かすぎました。自公政権の思うつぼでした。選挙前 2 週間という短い期間では、なかなか一本化には厳しいものがあった
○市民が政党に対して距離感を持つという中で、メディア支配のもと争点をはっきり伝えないことや小選挙区制度などがますます市民を政治から遠ざけるものが作用している
○本来、リベラルとは革新派であるが、対局にあるのが保守派。立憲がリベラルで改憲が保守という、世界的にもめずらしい状況に、多くの有権者にその意味するところが伝わらなかった。日本では、リベラルが保守的政策である。一般生活者のなかに現状を浸透させるには十分な時間の確保と用意ができなかった。
○自公政権に任せれば、とりあえず良いではないかとみる若者が多い現象。数年前の韓国も同様だった

【政党の問題】（共産党編）

○共産党の野党共闘への尽力には心打たれるものがありました。

○共産党の「大英断」でほとんど一方的に候補を取り下げた。屋台骨の共産党が少なくなるのでは元も子もなくなる。

○比例は共産党へが、もっとゆきわたればよかった

○共産党も諸派も新人を立ててどうする？共産党は、多数候補者を一方的に降ろし議席を半数ほどまで落とした事で讃えられる事が多いが、結果として与党２/３議席を許した。　３

【政党の問題】（立憲民主党・民進党・民主党編）

○立憲民主党は急な立ち上げで組織として実態がなかった

○民進党の態度が不誠実であった

○野党共闘と言いながら、他党が一方的に候補者を降ろすのを当然とする姿勢はおかしいと思う。

○立憲（民主）の元身内みたいな円氏や木内氏が立候補するのだから、共産に「おりてくれ」といっても、「円氏や木内氏が出るのにどうして共産だけ」と反応するので、統一は無理

【政党の問題】（希望の党編）

○希望の木内氏が立たなければ、勝てたと思います。木内氏の立候補が無ければ、共産党は降りたでしょう。共産党が８区で候補者を最後まで立てたのは、木内氏が出るなら、どちらにしても勝てない（自民の勝ち）ので、比例票を伸ばすためにも候補者を降ろせない

○今回の木内氏がかなりの票を取ったのも、希望の党小池さんのダーティーさが、まだ理解出来ない層（都知事選、都議会選のイメージのままの層）が一定数居たこと、または、他の新人女性候補よりは、前職若手男性候補がまだ良いという反安倍ではある保守的な層が流れた、という２種類の層が居たのだろう

【候補者の問題】

○山本太郎さん位の知名度（例えば、sns などで政府批判をしている高田延彦さん、松尾貴史さんなど）の候補者を立てて欲しかった。

○阿佐ケ谷駅頭での吉田さん、長内さんの演説を聞きに行きましたが、はっきり言って魅力も熱も感じませんでした。

○まずは「この人を当選させたい」という候補者がいることが前提です。

○円より子氏の統一破壊の無礼さ。この方のセンスに心から失望しました。

○円さんの立候補は意地とメンツと（旧）民主党→民進党移行時の恨みつらみとしか思えず、候補者１本化への阻害要因でしかなかった。リスペクトしすぎだったようにも思います。

【区議・都議・国会議員の問題】

○総選挙直前の＠杉並集会で共産党国会議員の挨拶において共産党候補に野党一本化を要望している旨の発言

○吉田はるみさんを応援する区議のアンフェアな態度

○区議の不協力。

○「議員と市民の会」であることの利点を、日常の活動においても選挙の時においてもほとんど活用できていない。

○会の賛同人である区議のひとり一人が、この件で結集して一枚岩になっている様子ではなく、その原因が仮に区議会における会派や区議同士の様子にあるとしたら、大変に残念である。あえて「議員と市民」としたが、区議、また杉並選挙区の都議を巻き込んだこともできなかった。

【石原のぶてる陣営の強さ】

○石原陣営の危機感と財力。

○自公の強さは、町内活動、消防団、祭り、火の用心 etc と地道な日常の活動、バスを連ねて町内会旅行や観劇。身近な世話をやく人たち。

2017 総選挙の候補者や政党に聞きたいこと

いろいろな疑問を持ち続けている賛同者も多くいます。その代表的な質問をいくつか引用します。

１）合意をまず破った円より子さんは、説明責任があると思います。

２）残ったお二人の候補はなぜ統一候補にできなかったのか、お二人の責任というよりは、所属の党の判断だと思います。噂では諸説流れていますが、是非、理由を明らかにしてほしいです。政党は、折角長期にわたって創り上げてきた市民の願いをなぜ聞けなかったのか、今は、全く納得できません。

共産党本部へ行ったときは、「これ以上、降ろすと比例の宣伝カーが出せない」と言われました。比例を重視する気持ちは分かります。ただ、実際、東京８区で共産党が候補者を立てたことは、はたして共産党の比例票につながったのでしょうか。そのあたりの共産党の分析結果が知りたいところです。

なぜ、東京８区で統一候補の擁立ができなかったのかは、個別に分けて勘案する必要がある。

東京８区で共産党が吉田はるみに統一できなかった理由

1　民進党都議選での惨敗

2　共産党が比例票の関係でおさないさんを降ろせなかった

東京８区で立憲民主党がおさない史子に統一できなかった理由

1　本人が直前まで準備をしている様子がうかがえなかった

2　力量が感じられなかった

統一できなかった共通の理由

1　野党候補乱立

2　区政での区議の対立の構図